

「学習意欲が低い」「学力が定着しない」「学校全体で取り組みたい」などの悩みを解決する

## 児童が意欲的に取り組み、低学年からのつまずきを解消する取組

呉市立広小学校では、「学習意欲が低い」「学力が定着しない」という課題を「学校全体で取り組んで解決したい」という思いをもち、低学年からの学力の定着を図るために「研究授業の充実・授業改善」「放課後補充学習の充実」に取り組んできました。

1つ目の「研究授業の充実・授業改善」では、「授業が児童にとって意欲的に取り組みたくなる学習内容」、「学習理解ができるような全体への手立てと個への手立て（視覚化・焦点化・共有化・動作化等）」を工夫してきました。そして、個へ焦点をあてた研究授業を通して学校全体で授業改善の方向性を共有化することができました。

2つ目の「放課後補充学習の充実」では、授業の学習の内容がより定着するように、児童のつまずきに応じた教材を準備して、つまずいている内容が定着できるよう学校全体で取り組みました。これらの取組によって、昨年度標準学力調査では、1～3年生の学年平均点は、国語・算数ともに全国を上回り、特に算数はいずれの学年も全国比+5ポイント以上と、低学年段階のつまずきが解消されてきました。授業における児童アンケート、「これまで習ったことを使って、問題の解き方を考えて、学習している。」では、肯定的評価94%と学習意欲の向上も見られます。



### 個に焦点をあてた 研究授業の充実・授業改善

#### 実態把握と手立ての検討(事前)

##### 付けたい力の明確化

三角形、四角形を知り、作図したり弁別したりすることができる。

##### 実態把握

前の学年に学習したことや単元に必要な学習内容の定着状況を把握するためのテストを行います。

##### 実態把握テスト

- ①まっすぐな線のことを( )という。
- ②5cmの直線をひきましょう。
- ③△の色板を4枚ならべて、□の形をつくりましょう。

##### 手立ての検討

レディネステストを基に、つまずきの大きかった児童の定着している力とつまずきの要因を検討し、効果的な手立てについて考えます。

##### 学年→ブロック→全体



### 第2学年 算数科「三角形と四角形」の事例

#### 実践(授業の流れ)

##### 導入

単元を貫くゴールを設定し、学習意欲を高めます。

##### 単元のゴール

おもちゃ祭りで使う形パズルをつくらう。

##### 手立て

つまずきを解消するために効果的な視覚化、焦点化、共有化、動作化などの手立てを行います。

向かい合う辺の長さが等しくないから長方形じゃないよ。

辺が切れていて囲まれていないから長方形じゃないよ。

##### 学び合い

自分達の考えを伝え合って理解を深めます。

##### まとめ

教科の見方・考え方のポイントとなるキーワードを示します。

##### 振り返り

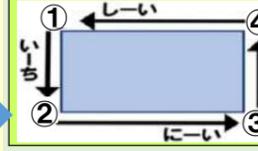
視点を示して行います。

##### 振り返りの視点

わ..わかったことが..がんばったことと..ともだちから学んだことも..もっと知りたいことに..にちよう生活に広げられること

辺をなぞることで図形についてよく分かったよ。向かい合う辺などの言葉でどんな図形か説明することができたよ。

#### 手立ての具体



##### ①視覚化・操作化

「いーち。にーい。さーん。しーい。4本の直線で囲まれているから四角形」

##### ②焦点化

向い合う辺に色を付けて長さに着目できるようにする。

##### ③共有化

「辺は、へーん」「頂点はツツンしていたいところ」

##### ④動作化

向い合う辺は、賞状をもつ手の位置。

##### 実態の検討

三角形を組み合わせて四角形を作ることができていない。辺の数や辺の長さに着目できるような手立てが必要だな。

直線という言葉が分かってない。辺や頂点など算数用語や向かい合うという意味が分からないかもしれない。

#### 個の実態に応じて

##### 手立てのアイデア

①視覚化・操作化して図形の定義を理解できるようにしよう。

②辺に着目できるように辺に色を付けて焦点化しよう。

③算数用語の意味が理解できるように言葉を考えよう。

④図形の性質を動作化して理解できるようにしよう。

#### 手立ての検証(事後)

事前に把握したつまずきの大きい児童の授業での様子や記述内容をもとにして、手立ての効果や改善案について協議します。

##### 授業観察シート

算数科「三角形と四角形」 研究協議会 (児童〇)	目標姿勢
児童の実態 (つまずき)	授業での児童の様子
つまずきの要因	効果的だったこと
手立て	本単元と各学年の関連のある単元の指導で押さえてほしい内容
改善案	

効果的な手立てについて検証し、授業改善の流れを共有することができました。

##### 児童の姿を基にした手立ての検証

辺をなぞることで辺の数に着目して図形を判断できていたな。

課題は色々な図形が混ざると、区別するのが難しそうだったな。

辺や角などの算数用語を正しく使っていて、意味が理解できていたな。

動作化したことで向かい合う辺や図形の性質を理解できていたな。

### 放課後補充学習の充実

#### 実態把握と教材の検討

##### 実態把握と保護者連携

保護者に放課後補充学習のねらいや日時などについて知らせます。授業やテストなどから、児童の実態を把握して、参加する児童を決めます。

たくさん図形があると長方形と正方形がまだよく分からないな。

##### 教材準備

学習につまずいている内容が身に付くようなプリント等を作成します。

長方形や正方形の定義を確認してから図形を探させる問題を用意しよう。

#### 実践

##### 個別指導

学年の先生で、個別の指導を行います。



辺の数を指でなぞりながら数えてみよう。辺の長さはどうかな。角は直角かな。

指でなぞったり直角を確かめたりするとよく分かった。

#### 振り返り

##### がんばりカード

学習したことを記録させ、事後に自己評価させたり、ご褒美シールを貼らせてたりして満足感をもたせます。

長方形と正方形の違いがよく分かってうれしいな。



授業でも自信をもって発表できそう。

#### 保護者・先生の声



保護者

学習で心配なことがありましたが、先生方が丁寧に見てくださるので力が付いてきてうれしいです。



先生

個別指導を通して児童のつまずきがより分かり、授業での手立てに役立てることができました。

# 学習のつまずきを解消する取組で「主体的な学び」の実現

呉市立昭和西小学校

要因分析 → 学びをつなぐ

つまずきの  
焦点化

手立て

自立した  
学習者へ

昭和西小学校では、全ての児童が基礎学力を身に付けられるよう、学習のつまずきを把握し、解消する指導方法の研究を進めてきました。学習につまずきのある児童の主体的な学びを実現するために組織的に取り組んできたことをお伝えします。

つまずきの  
焦点化

## 学習のつまずきをどのように捉えるの？

実態把握

何につまずいているの？

なぜつまずいているの？

他の手立ては？

どんな手立てがあるの？

どうやって要因を探るの？

本当に必要な手立てなの？

学習のつまずきの要因は、学年が上がるほど複雑化してくるため、児童が根本的に何につまずいているのかを捉えにくく、要因を明らかにすることも困難になります。さらに、手立てを考えたものの、本当に必要な手立てだったか、他にも有効な手立てがあったのではないかなど、いくつかの課題が見えてきました。そこで、要因に即した手立てを講じるために、つまずきの焦点化に取り組みました。

## つまずきの焦点化と要因分析



要因分析

個のつまずき

倍の関係を捉えて、図と式を関連付けて考えることが難しい。

手立て

- ・ テーブ図⇒数量関係
- ・ aの口倍がb⇒関係を捉える
- ・ 関係図を基に立式
- ・ 式の意味⇒話型で説明

要因

- ・ 量感がなく漠然と立式
- ・ かけ算の意味が曖昧
- ・ どのように図に表せばよいか分からない。

第3学年：算数科「何倍でしょう」

手立て

## 授業で、効果のあった手立ては？

### 第1学年：国語科の授業「いろいろなふね」

取組前

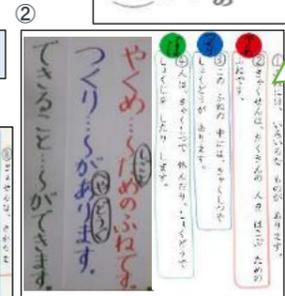
内容の大体を捉えることができない。

レディネステスト

大事なことを正しく抜き出すことができない。

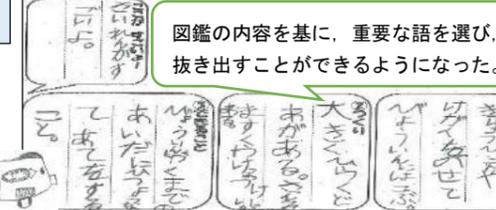
手立て

①



- ①スリットで、文のまとまりを意識。
- ②観点ごとに色分けしたキーワードを基に読み取らせる。
- ③マス目のワークシートを準備する。

取組後



図鑑の内容を基に、重要な語を選び、抜き出すことができるようになった。

評価問題

### 第3学年：算数科の授業「何倍でしょう」

取組前

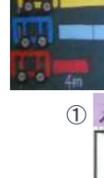
図と式を関連付けることが難しい。

レディネステスト

かけ算の意味を考えて立式することができない。

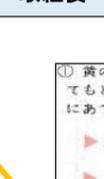
手立て

②



- ①「aの口倍がb」に当てはめ、aとbの関係を捉えさせる。
- ②テーブ図で数量の倍関係を捉えさせる。
- ③式の意味を表す話型で、図と式を関係付ける。

取組後



問題文から倍関係を読み取り、関係図と式を関連付けて、問題を解決することができるようになった。

評価問題

自立した  
学習者へ

## 学びをつなぐ取組は？

授業で学んだことを確実に定着させるために、家庭学習はとても重要です。しかし、学習につまずきのある児童は、宿題をやらうと思っても「自分の力だけで宿題をすることができない。」「難しくて、途中であきらめてしまう。」「など、学習習慣の定着にも課題が見られます。そこで、基礎的・基本的な内容の定着を目指して、学習につまずきのある3～6年生の児童を対象に、朝と放課後の個別指導を実施しています。

### 担任以外の個別指導

### 一人のつまずきも見逃さない指導・全教職員で継続中

ドリルタイム

8:15～8:30



正しく計算できるようになりたい！

文章問題が得意になりたい！

つまずきに関連する内容（前学年・前単元）の復習を計画的に取り入れることで、基礎的内容の定着を目指します。「分かった」「できた」などの、小さな成功体験の積み重ねが、学習意欲の向上につながっています。

放課後学習会

15:45～16:30



問題の解き方を教えてほしい！

自分の力で宿題ができるようになりたい！

その日の宿題をもって理科室に集まります。問題の意味を考えながら、確実に宿題をやり遂げることを目指します。一人も見逃さない個別指導で、学習習慣の定着にも効果が見られます。

☆色々な先生に、分かりやすく教えてもらえるので問題の意味が分かるようになったよ。  
☆算数が苦手だったけど自分の力でできる問題が増えたので、算数が好きになったよ。  
☆自分のペースで、じっくり考えるようになったよ。



## 学びのつながりを見る化

★のびっこタイム(8:15～8:30)★  
ねらい：基礎的内容の理解や計算技能の定着を図る。

算数科 年間指導計画

	4月	5月	6月	7月
1年	・数と数字	・何曜日 ・いくつといくつ	・いろいろな形 ・増えたり減ったり ・たし算・ひき算	・ひき算 ・かずらべ
2年	・表とグラフ ・時刻と時間 ・たし算とひき算	・長さ ・たし算とひき算	・図を使って考えよう ・100をこえる数	・かさ ・どんな計算になる
3年	・九九の表とかけ算 ・わり算	①「1桁でわるわり算の筆算」の学習の前に(第4学年)		
4年	・角とその大きさ ・折れ線グラフ	・1桁でわるわり算の筆算 ・一度をこえる数	・一度をこえる数 ・垂直平行と四角形 ・小数	・小数 ・算数ラボ
5年	・整数と小数 ・体積	・比例 ・小数のかけ算	・小数のわり算 ・合同な図形	・合同な図形 ・人文学 ・どんな計算になる
6年	・対称な図形 ・文字と式	・分数×分数 ・分数÷分数 ・分数×小数	②ドリルタイムで前学年の既習事項を復習します。	

のびっこタイム実施計画(4)年

	4月	5月	6月	7月
重点取組内容	1桁でわるわり算の筆算に向けて	1桁でわるわり算の筆算	一度をこえる数	小数
前学年や前単元の内容	たし算とひき算の筆算② かけ算・わり算・あまりのあるわり算③	たし算とひき算の筆算② かけ算・わり算・あまりのあるわり算③	100をこえる数② 1000をこえる数② 一万をこえる数③	小数③

③宿題で授業内容と既習事項を復習し、定着を図ります。

### 担任の放課後学習会

### 自分の力に応じて学べる場の設定

各学級でも、自由参加で放課後学習会を行っています。児童は、授業で分からなかった内容を質問したり、苦手な内容を中心に学習を進めたりしています。担任は、個の成長に目を向け、「できていること」や「良さ」を認めながら、さらに伸ばしてほしい内容を具体的に指導しています。

☆自主学習では、いつも計算練習ばかりしていたけど、学習したことをさらに調べたり、ポイントを自分の言葉でまとめたりできるようになったよ。  
☆難しかった内容をすぐに質問できるので、苦手な内容を克服することができたよ。

# 主体的に学ぶ 全員参加の“学び合い”

昭和南小学校では、児童の主体的な学びを促進し、学力の向上を図るため、全員参加の“学び合い”をベースとし、個を大切にした指導に取り組んできました。その取組を紹介します。



## 全員参加の“学び合い”

## 個を大切にした指導

### 全員参加の“学び合い”にするために

全校で、“学び合い”に取り組みました。

ほっとかない～自分を友達を～

#### 気付きの交流

- 【気づきを見つける】
- ①分かっていること
  - ②今までの学習とのちがいが
  - ③分からないこと
  - ④解決の見通し(仮定-思った-が使える)
  - ⑤答えの予想

短時間に全員が課題を把握することが大切です。

課題に対する気付きを交流することで、課題の意味を確実に理解することができます。

それが解決の見通しにもつながり、自力解決のヒントを得ることができます。

#### ほっとかない



分からないことはそのままにせず、その都度、友達と確認する。

周りの友達がどのような様子か常に気にかける。

このように、自分や友達をほっとかないということを大切にしています。

#### 聴き手をまきこんで発表



式はどうなりますか？

「～ですね。」  
「～ということになりますか？」  
式はどうなりますか？」

聴き手をまきこんで発表することで、全員が参加しなければならない状況をつくり出します。

### 学校全体の取組にするために

“学び合い”をベースとして、児童のつまずきの解消に向け、学校全体で取り組めました。

- “学び合い”の授業スタイルを、児童にも理解させるために、児童が上の学年の授業参観を行いました。

みんな大きな声で反応していました。すぐに手をあげていたところを見習いたいです。途中でしか分からなくても手をあげたいです。

【参観した児童の感想】



児童が授業参観

- 児童の主体的な学びの促進に係わって、本校の課題や改善策を出し合い学校全体で「あたたかな聴き方」に取り組むことにしました。教職員や児童と共通理解を図るために、聴き方の具体の姿をステップ表にまとめ、共有しました。また、各学級の取組状況を交流することで、指導方法の見直しを図りました。

- 児童のつまずきを把握するためレディネステストを行い、「どこにつまずいているのか、何につまずいているのか」を分析しました。全教職員で模擬授業等を行い、授業でのつまずきの予想とつまずきに応じた手立てを検討しました。

学力フォローアップ校事業で、研究授業や模擬授業、教材づくりなどの取組を通して、職員が本校の目指す授業を一緒につくりあげていこうとする一体感が生まれました。集団での“学び合い”、個を大切にした指導をこれからも続けていきます。



校長

## 授業の中での教師の手立て

“学び合い”をベースとして、学習のつまずきを解消するための効果的な手立てを全体で検討し、学習内容が定着するよう取り組めました。

### 算数科 第2学年 「九九のきまり」

まとまりをしっかりと捉えさせるためには…

#### 手立て

- ・まとまりを正しく囲むことができない。
- ・「●の△つ分」が正しく捉えられない。

#### つまずき

7こがあと3列あるから  $7 \times 3 = 21$ かな。



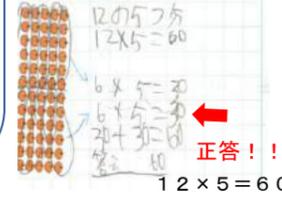
3列  
7 × 3 = 21  
誤答

- ・●の部分大きな丸で囲ませよう。
- ・図の方向をかえ、かけられる数とかける数が捉えやすいようにしましょう。
- ・図と式を対応して考えられるよう矢印をかかせよう。



- ・●を囲むことでまとまりが意識でき、「●の△つ分」を正しく捉えることができるようになった。
- ・「●の△つ分」の考え方を使得、九九にはないかけ算の問題も解くことができるようになった。

#### 変容



12 × 5 = 60  
正答！！

### 算数科 第4学年 「面積」

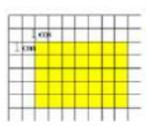
長方形や正方形の辺に着目させたいな…

#### 手立て

- ・1cm<sup>2</sup>の何個分かを捉えることができない。
- ・長方形や正方形のまわりの長さに着目できない。

#### つまずき

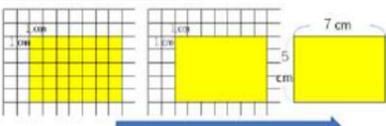
どこの長さが分かるといいのかな。



- ・かけ算の意味に帰着させて、面積の求め方を考えさせよう。
- ・「方眼入りの長方形」, 「方眼の上に重ねた長方形」を提示して、辺の長さに着目させよう。



#### スモールステップ



#### 変容

- ・「1cm<sup>2</sup>のいくつ分」の考え方をつかって面積を求めることができるようになった。
- ・辺の長さの提示だけで、長方形や正方形の面積を求めることができるようになった。

授業での児童の様子をもとに、どのような変容が見られたか、手立ての効果や改善について協議し、検証していきました。

## 放課後にじいる教室



授業の学習内容がより定着するよう、放課後の個別指導に学校全体で取り組みました。個別指導を通じて、児童のつまずきがより明確になり、授業での手立てに生かすことができました。

けいさんカードや音どくをきいてもらえるからうれしいです。



児童

にじいる教室に来て、できることや分かることがいっぱいふえて、すごく楽しいです。



児童

子ども達は、放課後残されて勉強をしているという捉え方ではなく、喜んで教室に来ています。「にじいる教室」に来ることで、分かる喜びやできるようになった喜びを感じています。指導する側としては、やりがいがあります。



フォローアップ教員

### その他の取組

#### スキルタイム

- ・月・火・金(13:50~14:05)に実施する、プリントを中心とした学力補充の時間です。
- ・学級担任+1名の2人体制で指導しています。(管理職・研究推進教員・フォローアップ教員・養護教諭・指導員)
- ・1か月の計画にもとづいて実施しています。



#### 環境整備

- ・全学年の学習プリント(国語・算数)を整理し、職員室に置いています。
- ・学年の実態に応じて、他学年のプリントにも取り組んでいます。児童のつまずきの把握にも活用しています。
- ・スキルタイム(帯タイム)や日々の授業、家庭学習で使っています。放課後の個別指導でも活用しています。



# 「チーム川尻」で学力UP! ～学校と家庭と児童 de ワンチーム～

呉市立川尻小学校

## 研究の概要

本校の研究テーマを「主体的に学ぶ児童生徒を育成する教育活動の創造～学力向上に向けた指導方法の在り方～」とし、学力調査や意識調査等の分析を基に、「授業改善」「個別支援」「家庭学習」を取組の3本柱と考え、3年間取り組みました。つまずきの分析を生かし、授業改善や放課後学力補充教室で個別支援の充実を図るとともに、授業と関連させた家庭学習の定着を図るために、保護者に理解と協力を求め、「学校」と「家庭」の学びがつながるようにしました。「チーム川尻」として、同じ方向性で指導することで、指導の効果が上がり、児童の学習意欲をベースとして学力面での成果が見られています。

## 家庭学習

### 予習を川尻小のスタンダードに

児童の主体的に学ぼうとする態度を育成するため、家庭学習に、授業と関連させた「予習」を取り入れました。保護者にも、家庭学習の目的や具体的取組を知らせ、協力していただきました。

### 家庭とともに取り組むために

#### 家庭学習の手引き

児童・保護者向け

#### 「チーム川尻」

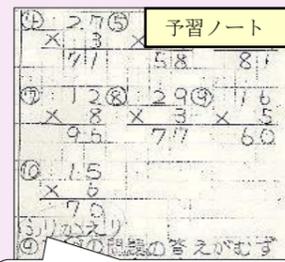
保護者向け



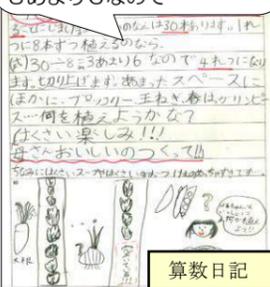
- 家庭学習の目的や方法を児童、保護者に示し、共通理解のもと、全校で実施!
- レベル1・2・3を提示し、個人に合わせてレベルアップでやる気もアップ!
- 家庭学習の定着度を確認するキャンペーンを定期的実施!

### 家庭学習のやり方をイメージできるように

予習ノートや、学んだことを生活とつなげた「算数日記」を教室に掲示しています。



(学習したことを活用した問題づくり) 今からさむくなつてくるので、はくさいを植えることにしました。はくさいのなえは30本あります。1れつに8本植えるのなら、 $30 \div 8 = 3$ あまり6なので...



### 取組の成果

- ・「予習で疑問に思ったことを授業で解決できる」という家庭学習の良さを児童が実感。
- ・自主学習や算数日記に取り組む中で、主体的に学ぶ楽しさに気付く児童が増加。
- ・家庭学習の定着率は、宿題提出率98%、自学実施率98%、予習実施率91%といずれも向上。

## 授業改善

### 「川尻小の授業モデル」の定着

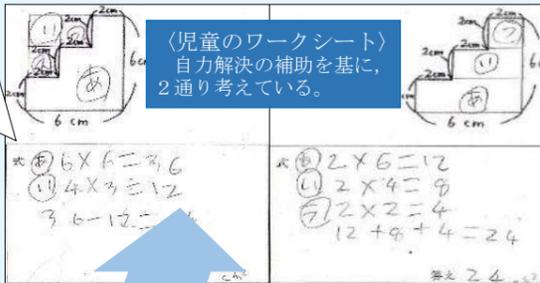
全ての児童が主体的に学びに向かえるように、学習のつまずきをレディネステスト等で分析し、つまずきに応じた手立てを講じるようにしています。児童一人一人が思考を働かせる場を位置付けた「川尻小の授業モデル」(課題をつかむ **一人で考える** **みんなで考える** **まとめ、振り返り**)の流れを基本にした授業づくりを行い、基礎学力を伸ばしていきました。

### 授業実践 4年 算数科「面積」

つまずき レディネステストで分析  
・正方形と長方形の定義の理解が曖昧で、形の分類を間違う。

#### 振り返り

ふくざつな形には、いろんなほじょ線の引き方がありました。U字型は「付け足し法」でほじょ線を引くとかんたんだったけど、かいだん型の方は、分れつ法の方が速くできました。



【**一人で考える**ための支援】  
U字型を区切ると3つの四角形になることを示す色紙の模型を提示する。

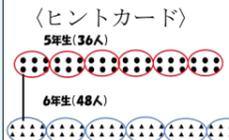


【**自力解決のための支援**】  
①「分裂法」と「付け足し法」をカードで提示する。  
②補助線を入れたら四角形に名前を付けさせる。

### 授業実践 5年 算数科「整数」

つまずき レディネステストで分析  
・文章から問題の意味を想像できない。  
・問題の解決に最大公約数を使うことができない。

【**一人で考える**ための支援】  
解決のイメージをもてるよう方眼のモデル図を示す。



つまずき レディネステストで分析  
・文章から問題の意味を想像できない。  
・問題の解決に最大公約数を使うことができない。

### 取組の成果

〈児童の変容〉  
・自分の考えを表現することが苦手な児童も、型にはめない「わちゃわちゃフリートーク」で、自分の考えを話せるようになった。  
・分からないところを進んでたずねるようになった。  
・正答率40%未満の児童の「基礎」の定着を図ることができた。

### 児童の意識の変容 (川尻っ子アンケート)



川尻小の振り返りポイントが 感心したよ  
わ 分かったよ 分からんよ  
じ じっくり 考えたよ  
り 利用した・利用してみよう



## 個別支援

### 「マナビーランド」開設! ～放課後学力補充教室～

つまずきの解消のため、個に応じた支援を行う学力補充教室を開設しました。



### 教室開設! 個別指導



地域の方や学生ボランティアなど外部の人にも協力を呼びかけました。来ていただいた日は、子ども達がいつも以上に張り切って学習に取り組んでいました。

指導は職員が輪番で協力して

### 取組の成果

～アンケートの記述から～

参加してよかったことは何ですか。

〈児童〉  
●分からないところがあつてもすぐに先生に開けた。  
●いろいろな先生に分かちやくく教えてもらえた。  
●勉強が少しずつ分かるようになった。  
●テストの点数が上がった。

〈保護者〉  
●分かる達成感が味わえ、意欲が出てきた。  
●分からないことを調べたり聞いたりするようになった。  
●分からないことを質問できると喜んでる。  
●算数の苦手意識が減ってきた。  
●家でも頑張るようになり、主体的に学習し始めた。

# TRY! TRY!

## あんきパンブック ～スパイラル学習～

教科書を基に、単元ごとの重要事項を児童が暗唱できるように言葉と図でまとめました！

### 【使い方】

- ページごとに暗唱し、先生に聞いてもらう。
- 1ページ言えたら、合格シールを1枚もらう。
- 1冊覚えたら表紙に大きい合格シールを貼る。
- 常に机の横にかけておき、自力解決の際に調べたり、まとめの際に暗記したりする。



がんばったらシールや賞状がもらえてうれしいな！授業もよくわかるようになって、発表できるようになったよ。

児童は公式や算数用語を忘れて思考が止まった時、すぐに調べることで学習意欲を維持できていました。



学力FU教員

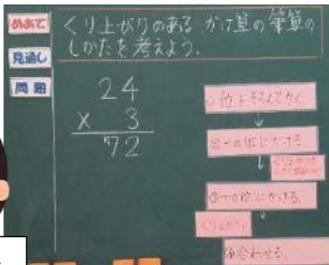
## スクリプト ～手順を明確に～

「スクリプト」とは、手順を明確に示したことを短冊にしてラミネートしたものです。論理的思考力を養うとともに、学習の理解を深めることを目指してスクリプトを活用した授業を取り入れています。例えば、写真のように前時に作成したスクリプトを確認し、本時の学習で増えた項目を赤で追加するなど、学習内容に応じて示しています。

校内研修で、全学年で「どの単元で」「どのようなスクリプトを使ったのか」を交流する場を設けて浸透を図っています。

学習のスパイラル化を図ることで、児童が手順を追って論理的に説明することに役立っています。

研究推進教員



## 研究体制 ～自分事として捉えるために～

### 分析

- 既習事項の定着度を把握するため、「じゅんぴテスト」を行う。
- 対象児童の誤答を「つますき分析シート」(右図)に沿って全教職員で分析する。

### 検討

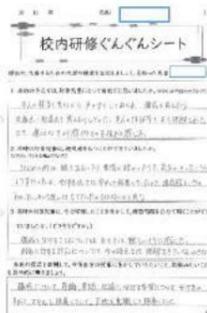
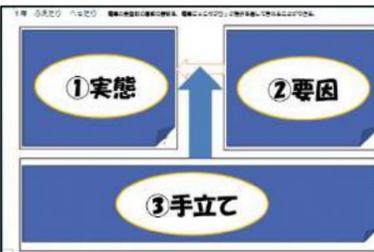
- どのようなつますきが予想されるか、対象児童への手立ては適切かを検討する。

### 模倣授業

- 教材(提示する問題、視聴覚教材)や板書は適切か、児童への問いかけや手立て(ワークシート等)は適切かを協議する。

### 事後協議

- 教職員が分担して抽出児童(3名程度)の様子見取り、「ぐんぐんシート」に記入する。
- 協議を終えた後、このシートに自身の指導に生かしたいこと、取り組んでみたいことを記述する。



上記の各種データは、中通小学校のHPにて公開しています。

# 竹原市立中通小学校

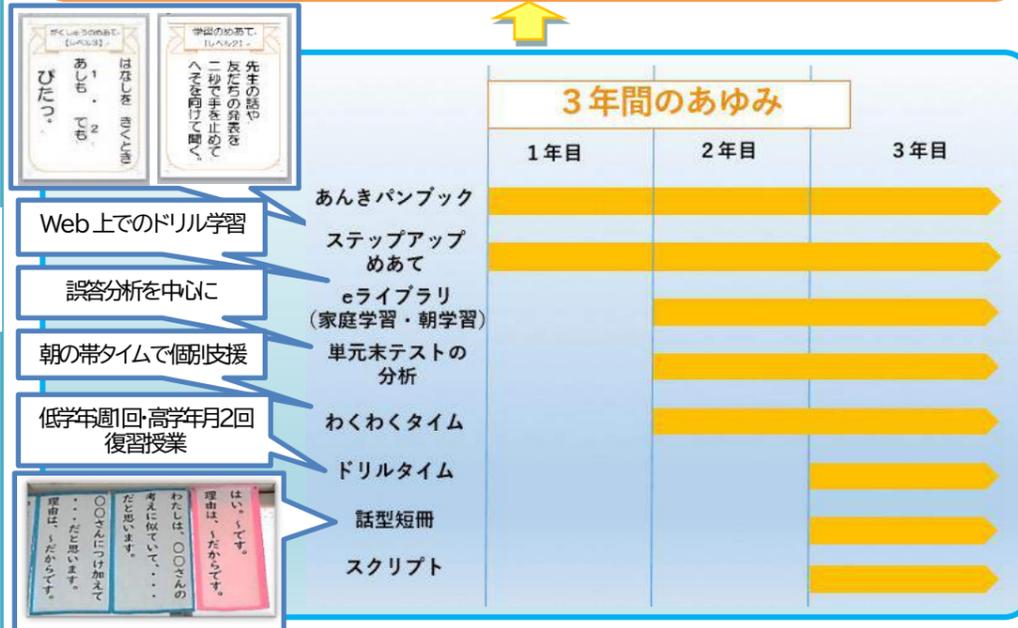
主体的に学び、論理的に考え説明できる児童の育成  
—ユニバーサルデザインの視点を取り入れた算数科の授業づくり—

## 目標

- 単元末テストの正答率70%未満の児童の割合を0%にする
- 学習意欲アンケートの肯定的評価を90%以上に

## 結果

17%→0.9%に！  
87%→93%に！



## 中通小学校 算数科 授業モデル

みつける つなげる ひらける まとめる

**問題提示**・・・日常に即した題材や、必然性のある問題の工夫をする

**見通し**・・・既習事項をふり返り、生かす

**めあて**・・・児童の言葉から設定する

**もくもく**・・・見通しを生かして、一人でじっくり問題に向き合う

**シェア**・・・ペアやグループで、自分の考えたこと(わからなかったこと)を交流する

**なるほど**・・・図・式・言葉などを使って全体で意見交流し、考えを比較・検討する

**まとめ**・・・めあてをふり返り、手順や重要事項をまとめる

**トライ!トライ!**・・・複数の課題(発展的な課題)に取り組む

**ふり返り**・・・分かったこと、なるほどと思ったこと、次に学習してみたいことなど、ふり返る視点を明確にして、自己(または集団)の学びや成長をふり返る

つますきやすい児童は、授業の時間に教師や友達の話聞いていないため、何をしているのかわからなくなる子が多いです。そんな子も、この流れに沿って学習することで板書も構造的になり、授業中見通しをもって1時間の学習に参加できています。



校長

# なるほど!実践事例

## 第1学年 100までの数 タブレットで反復練習!

《児童のつますき》  
○100までの数をよんだり書いたりできない。  
○物と数の呼称のマッチングが正確にできない。

20より大きい数むずかしいな。たくさんあって覚えられないよ。

《つますきへの手立て》  
① 100玉そろばんの玉を1つずつ動かしながら数を数える。

「21, 22, 23・・・」1から順番に数えているんだね。あれ、途中でわからなくなっちゃった!

② 10のまとまりと1の数え方を、指使いを分けて数え、タブレットに数を書く。

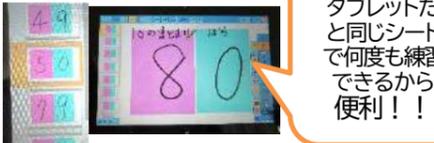
10のまとまりの数え方と、1の数え方がわかったんだね。



「10が4つと1が7つで47」10と1を分けて数えるとかんたん!

③ タブレットで「何+9」の次の数の練習をする。

39のつぎは、十の位が1つ大きくなるんだね。



タブレットと同じシートで何度も練習できるから便利!!

かすの、いろんなきまりをみつけたよ! 100ますをかくのも早くなったよ。

④ 100ますに1から100まで書く練習をする。

## 第4学年 2けたでわるわり算の筆算 いつでも付箋で確認!

《児童のつますき》  
○わり算の場面のイメージができない。  
○わり算の筆算で、空位に商をたてたり、たてた商が正しくなかったりする。

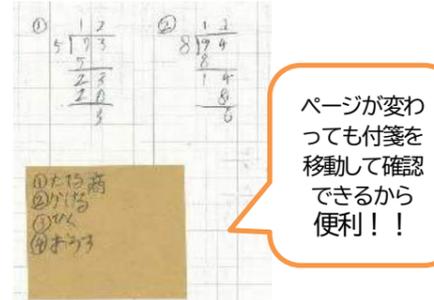
数が大きいわり算はどうやってやるのか、どこに数をかいたらいいかわからないよ。

《つますきへの手立て》  
① お金の図を囲んで分けることを通して、わり算の場面を捉えさせる。

同じ数ずつわけるとわり算なんだね。お金が100円、位ごとに分けて計算できそうだな。

② 筆算の手順を付箋にかいて、ノートに貼る。それを見ながら手順に沿って付箋を見なくてもできるようにするまで繰り返し筆算をする。

1の位を隠して考えると、九九で商がたてられるぞ。



ページが変わっても付箋を移動して確認できるから便利!!

位ごとに分けたら、今までのわり算と同じだ!  
① 見当  
② たてる  
③ かける  
④ ひく  
⑤ おろす  
を繰り返せばいいんだね。

③ 空位がある計算など、手順を応用する問題に取り組ませる。

もう付箋を見なくても筆算ができるようになった! もっとやってみよう!

# つまずきを 解消するための 支援の工夫

全ての子どもたちの  
健やかな成長を願って



大竹市キャラクター  
コイちゃん

大竹市立小方小学校  
広島県大竹市小方ヶ丘1番1号  
E-mail:ogataikko@fch.ne.jp

## 家庭学習への支援 ～自立した学習者を育てる～

ポイント I

### 放課後学習教室の設置

学力に課題がある子どもたち（対象：2～5年）を中心として、放課後に家庭学習のサポートを行いました。このサポートにより、家庭学習の習慣が身に付き、学校での学びの姿にも変容が見られました。



課題を把握  
分析したものを共有  
支援方法について検討



放課後学習教室  
フォローアップ教員  
研究推進教員

共有

学級担任

子どもたちの学習の様子から  
●学習定着状況を把握  
●つまずきの様子や支援の  
効果について分析

特別支援教育の視点（ユニバーサル  
デザインの視点等）をベースにして  
● 授業改善  
● 支援計画の修正

成果

### 続ければ子どもの学びの姿は変わる

子どもたちが、宿題をしてこないことを子どもの努力のせいにして終わらせてはいけません。学校で学んだことがよく理解できていない、家が学習する雰囲気になっていないなど様々な原因があります。放課後学習教室は、わからないときにはいつでも教えてもらえ、安心して学べる場として、学習意欲の向上に大きな役割を果たしました。

## 組織体制の強化

ポイント II

～子どもたちをみんなで支える～



小学校は、学級担任が一切の責任を負って取り組んでしまいがちです。しかし、学カフォローアップ校事業の指定を受け、教職員同士の横のつながりを意識した組織体制の強化を図ったことで、一人の子どもを様々な視点からとらえることができ、よりよい支援を工夫して行うことができました。一人の子どもをみんなで見守り、その子の成長を喜び合うことができました。

また、授業研究では、縦のつながりを意識した授業実践を積み重ねたことで、ゴールを見据えた教材の捉え方や子どもの学びの姿について考えが深まり、子どもの学びの状況を分析する力や必要な支援について考える力がつきました。

子どものつまずきを解消するためには、子どもを支えるわたしたちのネットワークを強化することが何よりの近道であること、子どもの状況を共有化したり子どもの変容を様々な視点で見守る力をつけたりすることが大切だと気づきました。

### 児童の変容

**A 児：**授業中一生懸命気配を消し、困っていることを知られないようにしていました。放課後学習教室に来た最初の頃は、ランドセルの中のものばらまいて必要なものを取り出していました。「漢字なんか覚えなくていいの。」と豪語していた頃の字は、マスに入らず、横画の数が違う、点の位置が違うなど課題だらけ。今では、分数のたし算引き算の通分約分を間違えず、もちろん漢字もばっちり立派に学習しています。

**B 児：**視覚刺激に過剰に反応してしまうので、落ち着いて学習することが苦手です。算数の表の整理の学習の時に情報を読み取るむずかしさを感じ、自分でそのことを訴えてくれました。刺激を減らす支援、情報の見方の方略を支援すると、学習意欲が高まり、困ったときに必要な支援を要求することができるようになりました。

## 指導法の改善

ポイント III

～つまずきを解消する最善の策～

構想から実施まで組織的に研究し、実践を積み重ねる

PLAN

事前協議

授業者、学年担任、研究主任、研究推進教員で授業プランを検討  
単元構想の決定  
＜教材分析・子どもの実態分析・目標分析＞を教職員の協働的な学び合いにより検討する。  
具体的な支援の決定  
授業のユニバーサルデザイン化（視覚化・共有化・焦点化・構造化・身体性の活用）等特別支援教育の手法をベースに考える。

DO

研究授業

つまずきの大きい児童の様子と支援の効果を中心に観察



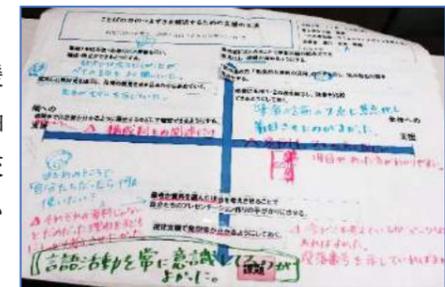
授業者の支援計画に沿って、観察シートに気付いたことをメモする。対象児童への支援の有効性を中心に観察する。

CHECK

研究協議

観察した子どもの様子を交流し、効果的な支援について研修

各自の観察シートをもとにグループごとに支援の有効性について座標軸で分析する。その後全体交流で、よりよい支援について共通認識を持つ。



ACTION

日々の実践に生かす

よりよい支援、指導法の改善へ

改善した指導法（例） <http://members.fch.ne.jp/ogataikko/15kyomu.html>

<2年>わり算につながるかけ算九九の指導法 <3年>要約力を育てる読解指導法  
<4年>わり算筆算の指導法 <低学年>読みの流暢さを目指したひらがなの指導法  
～小数のわり算までを見通した計画的な指導法～ ～多層指導モデル MIM を活用して～

### 実践発表会アンケートより(R2.12.24 実施)

指導にあたって児童のつまずきをまずしっかり分析をし、実践を繰り返すことが必要だということがわかりました。また、先生方の情報共有も大切なものになると思いました。あとは、縦のつながりをより意識していくことが必要だと思いました。本校は小中一貫教育校でもあり、ある学年の時はこの方法で計算をやっていたが、今はこうやってみてと言われるといったことが起きると、子どもたちが混乱すると思います。9年間を意識した指導をしていくことが必要だと感じました。



# 東広島市立 中黒瀬小学校

本校は、学校教育目標を「夢と志をもち、主体的に取り組む児童の育成」とし、児童一人一人が自ら目標を立て、強い意志をもって自ら考え努力することを願って設定しております。この目標を踏まえ、「できた」「わかった」「楽しい」を継承するとともに、「みんなで考えよう やってみよう つなげよう」を合言葉に、基礎学力の定着を図りながら、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組んでいます。



校長

中黒瀬小学校では、3年間「学力向上を図るための『わかる』『できる』授業の創造」という研究主題のもと、研究をすすめてきました。

本校では、中小授業スタイル（1単位時間の授業の流れ）に基づく授業、算数科を中心としたTTによる授業、学力に課題のある児童に対する個別の指導計画を活用した個別指導等の学力を高める取組を行いました。



研究推進教員

### 【3年間の取組による成果】

- ・ヒントカードやICTの活用など、個の実態に応じた手立てをしたことで、児童が「わかった」「できた」と感じることができるようになりました。
- ・個→ペア→グループ→全体という活動の流れを確立することで、学びが深まりました。
- ・センダタイムや放課後ルンルン教室の個別指導により、学校全体の学力向上につながりました。

### 【中黒瀬小学校の取組のアピールポイント】

- ・全ての教職員（チーム中小）がそれぞれの個性を發揮しながら、学校教育目標や研究主題の実現に向けて団結して取り組んでいます。



先生達の声

## 「わかる」「できる」ための指導の手立て

### 国語科

課題発見・解決学習の  
単元の流れ

- 1 課題の設定
- 2 情報の収集
- 3 整理・分析
- 4 まとめ・創造・表現
- 5 実行
- 6 振り返り

### 算数科

中小授業スタイル  
（1単位時間の授業の流れ）

- 1 問題提示
- 2 問題の分析
- 3 課題の設定
- 4 見通し
- 5 自力解決
- 6 ペア・グループ学習
- 7 全体交流
- 8 ミニまとめ
- 9 適用問題
- 10 まとめ
- 11 振り返り



## 授業を支えるための6つの取組

- ① 朝読書・朝学習
- ② ぐんぐんタイム
- ③ サマースクール
- ④ 家庭学習
- ⑤ 漢字・計算の取組
- ⑥ 読書活動の充実

ぐんぐんタイムでは、基礎的な計算や漢字の反復練習を行いました。



## センダタイム

全学年 週1～2時間

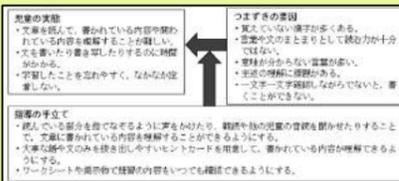


国語科や算数科の教科の一部の時間をセンダタイムとしています。



学習内容の復習を行い、教室での指導を行うと同時に、習熟度に応じて、少人数での指導を学習室で継続的に行いました。分かったことを毎時間振り返りカードに書かせることで、児童が1時間の中で「わかった」「できた」と思え、達成感を味わえる授業を行いました。

## 個別の指導計画



各担任が、学力における個別の指導計画を作成しました。研究授業においても、「児童の実態」「つまずきの要因」「指導の手立て」の三つについて検討し、学習指導案にも載せました。児童の実態からつまずきの要因を分析し、指導の手立てを工夫しました。また、日々の指導にも生かすことができました。

## 特別支援教育の視点からの授業改善



立腰

瞑目

- ① 学習に臨む姿勢や、始業の児童の動きに対する取組（瞑目する時間をとる。）
- ② 学習環境を整備する取組
- ③ 児童に今必要なものだけに注目させる取組
- ④ 学習に必要なものを必要な時に用意させる取組
- ⑤ 見えやすく分かりやすい掲示の方法

## 放課後ルンルン教室

【実施日】 月曜日・木曜日・金曜日の放課後

家庭学習や授業で分からなかった課題などに取り組み、学力の定着を図りました。児童が分からなかったり、どうやったらよいか困ったりしたら、すぐに教職員が対応するため、児童は安心して学習に取り組むことができました。



### ＜児童の声＞

- ぼくのたから物はルンルン教室です。ルンルン教室の先生がやさしいから、ぼくはルンルン教室の先生みたいになりたいです。ぼくは、ずっとルンルン教室に通いたいです。
- わたしは、ルンルン教室に来て、計算が早くできるようになりました。宿題も前よりも早くすませることができるようになりました。ルンルン教室に通うことができ良かったです。
- 分からないことはすぐに先生に質問して、ていねいに教えてもらうことができるので、勉強がよく分かるようになりました。これからも集中してがんばりたいです。

## 算数科を中心としたTTによる授業

第2～5学年  
週1～2時間



学習の見通しを立てたり、考えをもったりすることが難しい児童には、個別に説明したり既習事項について考えさせたりしながら、指導・支援を行いました。





## 全教員で、つまずきの要因を分析

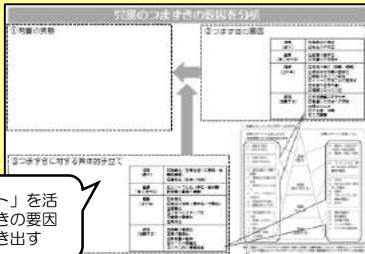
活用 (使う)	<input type="checkbox"/> 抽象化の弱さ <input type="checkbox"/> 一般化の不成立
習慣 (身に付ける)	<input type="checkbox"/> 記憶の苦手さ <input type="checkbox"/> 定着の不安定さ
理解 (分かる)	<input type="checkbox"/> 認知の偏り (視覚・聴覚) <input type="checkbox"/> 複数平行作業の苦手さ <input type="checkbox"/> 曖昧なものへの弱さ <input type="checkbox"/> イメージすることの苦手さ <input type="checkbox"/> 学習に仕方の違い <input type="checkbox"/> 理解のゆっくつき
参加 (活動する)	<input type="checkbox"/> 状況理解の不十分さ <input type="checkbox"/> 見通しのなさへの不安 <input type="checkbox"/> 関心のムラ <input type="checkbox"/> 不注意・多動 <input type="checkbox"/> 二次障害

児童のつまずきの要因をユニバーサルデザインの視点に照らして分析

児童の学習の様子(動画)を見ながら分析



テストやノート、日記、図工の作品など、様々な資料から分析



「要因分析シート」を活用して、つまずきの要因から手立てを導き出す

児童の実態を多面的に把握  
学力調査の結果  
テスト・ノート・宿題  
学習の様子(動画)  
日頃の生活の様子  
掃除・クラブ・委員会  
前年度までの状況  
家庭環境 等

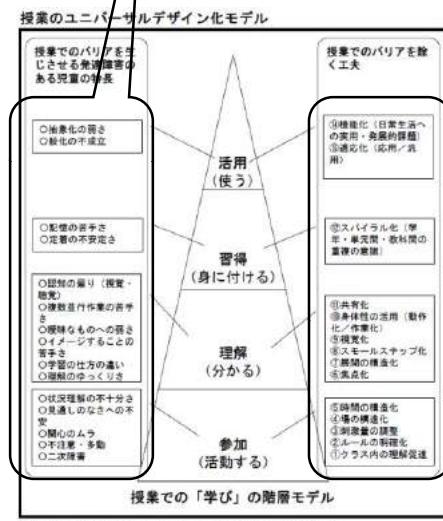


わからない・できない

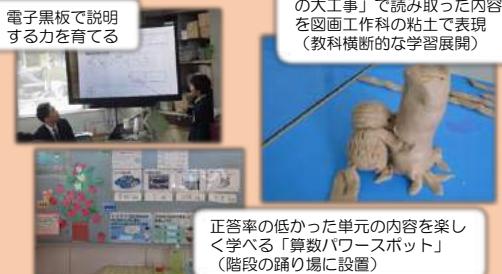
成果  
課題のあった領域で研究授業を行った結果、正答率が向上

学年	領域	問題の内容	全国平均との差		H30との差
			H30	H31	
1	数と計算	減法の問題づくり	22.4	39.2	+16.8
2	量と測定	身近にあるかさの単位の理解	2.2	17.1	+14.9
		読むこと(国語科) 事柄の順序を考えながら読み取る	-8.4	7.8	+16.2
3	量と測定	道のりの意味理解	-12.8	-0.8	+12.0
4	面積	複合図形の面積を求める式を選ぶ	-9.5	3.0	+12.5
5	数と計算	小数倍の文章問題を解くための除法の式を選ぶ	-18.0	-4.8	+13.2
6	数と計算	基準量が分数の場合の比較量を求める	-10.9	6.3	+17.2

## ユニバーサルデザインの視点を活用



## その他の実践事例



## 手立て

### 授業研究



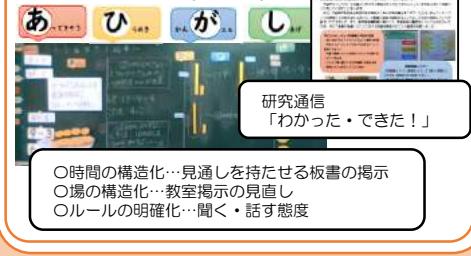
活用 (使う)	⑭機能化(日常生活への実用・発展的課題) ⑮適応化(応用/汎用)
習慣 (身に付ける)	⑫スパイラル化(学年・単元間・教科間の重複の意識)
理解 (分かる)	⑪共有化 ⑩身体を活用(動作化/作業化) ⑨視覚化 ⑧スモールステップ化 ⑦展開の構造化 ⑥焦点化
参加 (活動する)	⑤時間の構造化 ④場の構造化

つまずきの要因に対応した手立てをユニバーサルデザインの視点から考える

## 学校全体として



## すぐに実践 広がる授業改善!



## 個に対する支援



## 放課後の学力補充教室

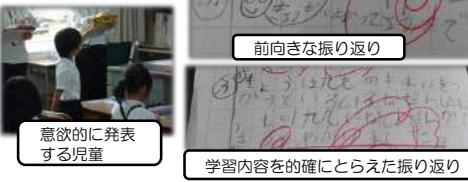


## 児童の変容

★つまずくと、投げやりになってしまう児童が、最後までやりきれようになった



★学習に前向きに取り組めなかった児童が、意欲的に取り組めるようになった



★読み取り問題や、基礎的な計算問題の定着が難しかった児童が、自信をつけてきた



★高学年児童でも、日々の課題をやりきることで、学習に意欲的になり、学力の向上もみられた

## 研究体制づくり

### 1年目

- ・児童のつまずきを多面的に分析
- ・授業分析の視点の焦点化
- ・課題のある児童に焦点を当てた見取り

### 2年目

- ・系統性を意識した研究協議
- ・ユニバーサルデザインの視点を活用したつまずきの要因分析
- ・汎用性の高い学習指導案の作成

### 3年目

- ・研究授業の成果から日々の授業改善へ
- ・指導事項から手立てを焦点化
- ・公開研究会(研究成果・取組実践の普及へ)

## 今後において…

- ・研究推進体制の継続
- ・全教職員での組織的な取組
- ・日々の授業改善につながる研究授業
- ・放課後等の学力補充



# つまずきの要因分析をもとにした授業づくりのコツ!



**国語** 自分の考えをまとめる時に、鉛筆がとまってしまいます。

考えを「まとめる」ためには、さまざまな知識や技能を必要とします。まずは、表現することへの意欲があるか、次に主語・述語の関係を捉えているか、また語句の意味を理解できているかなど、練習問題を通してつまずきを丁寧に捉えることが大切です。

**算数** 計算はできますが、文章題を正しく解くことが難しいです。

文章題を解くためには、そのプロセスの理解が必要となります。演算決定が正しくできても、「6-8」などと立式する場合もよくあります。また、ありえない答えになっていることに気づかないこともあります。解決の手順を視覚化することが有効です。

**言語** 語彙の少なさや、語のまとまりの捉えにくさから音読が難しいです。

語彙には、これまでの生活経験が大きく関わってきます。生活と言葉をつなぎながら、まずは言葉を獲得していくことから始めます。次に、言葉と意味をつないでいきます。どちらも楽しみながら進めていくことがポイントです。

**言語** 繰り返し練習をしていますが、漢字の定着が難しいです。

「練習がたりないから書けない」と思われがちですが、そうではありません。漢字の読みと書きのどちらにつまずいているのかを捉えることが大切です。また不器用さや視知覚の弱さが背景にある場合もあります。

## 国語科の授業において

- ①表現することへの意欲があるか。
- ②主語・述語の関係を捉えているか。
- ③語句の意味を理解できているか。

- ① 話型や文型を提示する。
- ② 「文章再現カード」を操作して考える。
- ③ 画像によるイメージ化を図る。

キーワードが書かれた「文章再現カード」を操作しながら自分の考えをまとめます。



③語句の意味を理解できているか。

③画像によるイメージ化を図る。

言葉カードを使って何度も考え直すことで、大造じいさんの人物像をまとめることができました。

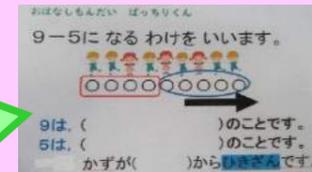
5年生「大造じいさんとガン」の実践へ

## 算数科の授業において

- ①問題場が理解できているか。
- ②数が何を表しているのか理解できているか。
- ③解決の手順を理解できているか。

- ① 動画等の視覚支援を取り入れた問題提示を行う。
- ② 「お話問題ばっちりくん」を用いて説明する。
- ③ 「お話問題読み取りくん」を使って考える。

演算決定の根拠を絵・図・言葉をもとに分かりやすく説明します。



③解決の手順を理解できているか。

③「お話問題読み取りくん」を使って考える。

今まで説明はできなかつたけど、「ばっちりくん」を使うとできました。うれしかったです。

1年生「たすのかな ひくのかな」の実践へ

## FU勉強会において

- ①「言葉カード分析」を使って絵を見て名前を言わせる。
- ②「言葉絵カード」を使って言葉と絵をマッチングさせる。毎日、放課後に時間を計って1つずつ絵を見ながらその名前を言わせる。
- ③果物・野菜・動物・乗り物など、生活になじみのあるものの絵カードを用いて行う。

言葉を素早く思い出すことを大切にしています。



言葉をはやくいっぱい言えるようになったよ。毎日、先生といっしょにやってみて楽しかったよ。

「言葉絵カード」の実践へ

## 通級指導・FU勉強会・家庭学習において

- ①漢字テストをもとに「漢字誤り分析」を行い、想起の仕方や見え方を捉える。
- ②選択型漢字テストを実施したり、「漢字イラストカード」を作成したりする。



表には熟語を表す絵を裏には熟語の読みや自分なりの覚え方をかきます。

たしかめようのテストで初めて90点とれました。この方法でたくさんの漢字を覚えていきます。

「漢字イラストカード」の実践へ

## 計画的・継続的・組織的な研究体制づくり

校長

四季が丘小学校では、学びの変革パイロット校事業と学力フォローアップ校事業を両輪に据え、全教職員で研究に取り組んできました。ブラッシュアップを重ねた学習指導案と明日からの実践に生きて役立つ研究協議が自慢です!



教頭

職員室では、担任、FU教員、通級指導担当、研究推進教員が「気になるあの子」の学びの姿やがんばりを伝え合う場が見られます。できるようになったことがひとつ、またひとつと積み重ねることが児童と教員の元気とやる気につながっています。児童と教員が安心して学べる環境づくりに努めています。



学びの系統性と具体的な支援や手立てを明記した **学習指導案**

校内研修での学びの内容をまとめた **研究推進便利**

具体的な支援や手立ての活用をふまえた **効果のあった実践事例**

手立てや支援のヒントとなった **参考文献**  
(例)『コグトレパズル』  
宮口幸治著 (SDクリエイティブ)

学習指導案や教材・教具(文章再現カード、お話問題ばっちりくん等)、研究推進便利などをホームページに掲載しています。

←こちらの「パソコン博士」のマークが目印です!

<http://www.hatsukaichi-edu.jp/shikigaoka-e/>



## 安心して学べるFU勉強会



・FU勉強会に来てから、算数の点が上がって算数が好きになりました。6年生になってから大変になるから、今、勉強会に行っておいてよかったと思いました。(5年児童)  
・自分の力で問題をといてみます。(3・6年児童)

安心して学ぶ環境づくりに努めました。あきらめずに自分の力で学びに向かう児童が増えてきています。(FU教員)

宿題をやり終えているからか、家で「自主勉やっているよ。」という言葉をよく聞きます。今まではほとんどやることがないことを自ら取り組む姿に感激です。(保護者)

研究主題 思考力・表現力を育てる理数教育をめざして  
～ 見方・考え方を働かせる活動を通して ～

研究内容のPointは、「学習の分かりやすさ」と「学習の徹底」！  
「全体への指導」と「個に応じた指導」！

全体への指導

- 授業づくり
  - ・見方・考え方を働かせる活動の工夫  
理由や根拠を明らかにして考えるようにします。
  - 「なぜ?」「どうして?」「どこから?」
  - ・ノート指導の充実  
基本のノートの型を示して書き方を身に付けさせます。
- 学習の徹底
  - 授業  
授業のゴールを明らかにします。  
練習問題などは全員ができているか確認して、間違いやつまずきの有無を明らかにします。  
つまずきに応じて手立てを講じます。  
単元の学習内容を網羅したプリントを作成して、取り組ませます。
  - ドリルタイム(13:30~13:40)  
課題のあるところを中心に復習をします。  
低学年では、問題場面を表した絵から問題をつくる活動をします。
  - 家庭学習  
授業の内容と関連した学習課題や自主勉強に取り組みさせます。  
直しは、声掛けをして、その日のうちにやり切らせます。
- 学習環境の整備  
学習のあしあとを教室や廊下に掲示します。  
児童のよいノートも掲示します。

個に応じた指導

- 授業  
算数科の授業は、全学年、担任と担任以外の教員で行います。担任以外の教員は、学力に大きな課題がある児童を中心に支援をします。  
支援の内容や方法、児童の様子を記録し、児童のつまずきと手立てについて担任と連携します。
- ドリルタイムのフォローアップ(13:30~13:40)  
学力フォローアップ教員等が、学級に入り、学力に大きな課題がある児童の個別指導をします。
- 給食前のフォローアップ(12:05~12:20)  
学年を絞り、学力に大きな課題がある児童と算数を大好きにしたい児童が自由に参加して算数のつまずきを解消するための課題に取り組みます。図書室で担任以外の複数の教員が指導します。

効果のあった事例1 ~1年国語科 ひらがな・簡単な文を書く~

- 児童の実態  
平仮名を覚えることが苦手で、形をとりにくい。音が不明瞭なところがあって、書き間違いをする。
- 手立て
  - ① 児童机にラミネートした「五十音表」を貼る。  
(児童に確かめてから貼る。)
  - ② 平仮名積み木の貸し出しをする。  
(保護者に言葉遊びの協力を依頼)

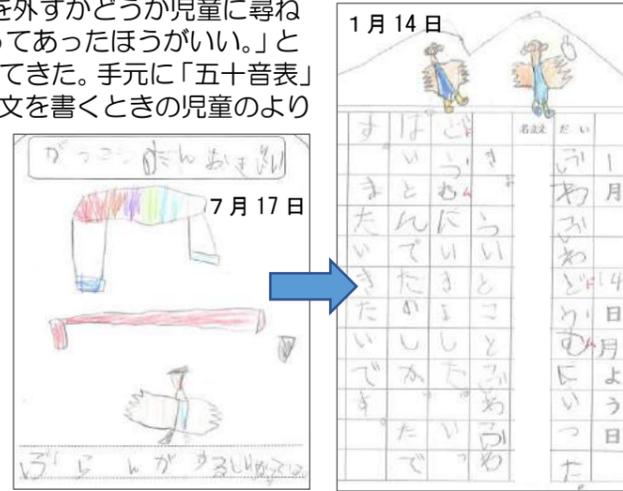


児童机に貼った「五十音表」

- ③ 絵日記(9月~)
  - ・1週間に1回絵日記を書く宿題を出す。(保護者の協力)
  - ・書き方のポイントや例文を示す。(絵日記を綴じるファイルの内側に貼る。)
  - ・3文で書けていないときには、教師が声掛けをして児童が話したことを付け加えさせる。

■児童の変容

- 「五十音表」を見なくても平仮名が書けるようになった。  
「五十音表」を外すかどうか児童に尋ねたところ、「貼ってあったほうがいい。」という言葉が返ってきた。手元に「五十音表」があることが、文を書くときの児童のよりどころとなった。
- 平仮名の形が崩れたり脱字があったりしたが、1月の絵日記では、平仮名の形が整ってきて3文で書けるようになった。

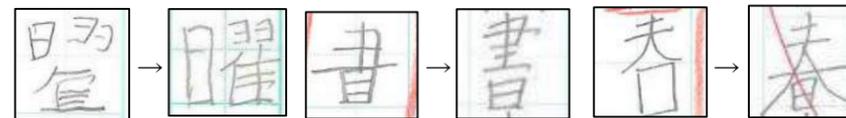


児童の記述(7月)

児童の記述(1月)

効果のあった事例2 ~2年国語科 正しい漢字を書く~

- 児童の実態  
漢字の字形を正確に捉えることが難しい。横画や縦画の数を間違えて正しく書くことができない。
- 手立て
  - ① 教材の工夫
    - ・漢字の細部に気付きやすくするため、漢字ドリルを1.5倍に拡大したプリントを活用する。
    - ・字形を捉えられるように、蛍光ペンで書いた漢字を鉛筆でなぞれるようにする。
  - ② 一斉指導での工夫
    - ・新出漢字の学習で、とめ・はね・はらい等の気を付ける部分や間違えやすい部分をチョークで色分けして板書する。
    - ・間違った漢字を板書して、間違い探しをする。
  - ③ 定着させるための工夫  
登校して始業準備が終わった児童から順に、家庭学習の内容に合わせた3問のミニ漢字テストをする。
- 児童の変容
  - ・あいまいだった部分を正確に捉え、正しい漢字が書けるようになった。
  - ・4月に書いた字と比較させることで字の変化に気づき、整った漢字を書こうという意欲をもつことができた。

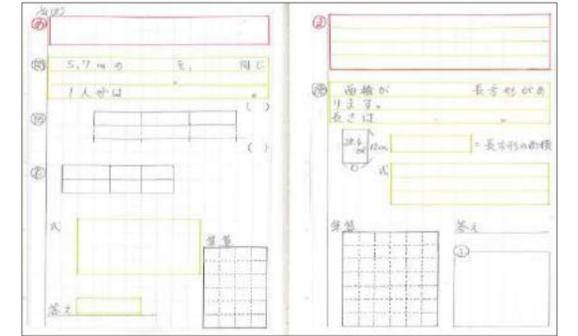


効果のあった事例3 ~4年算数科 算数のノート指導~

- 児童の実態  
文字を書くことに抵抗がある。文字の形が整わない。また、ノートの使い方が身に付いていない。

■手立て

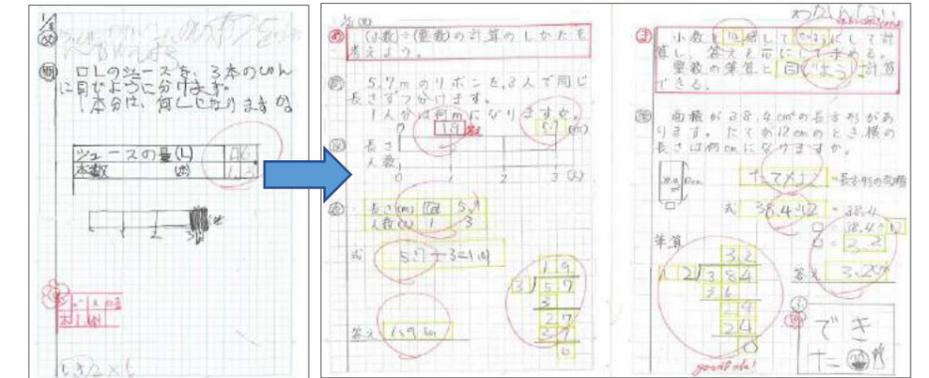
- ・児童の実態に応じて児童用のノートづくりをする。
- ※板書とリンクさせる。
- ※1時間の授業内容を1ページに収める。
- ※問題文の一部を書いておく。
- ※筆算を書く場所は点線で分ける。



手立てを書き入れた児童ノート

■児童の変容

- ・枠の中に文字をおさめて書くようになった。
- ・内容を落とさず書くようになった。
- ・筆算では、計算の間違いが少なくなった。

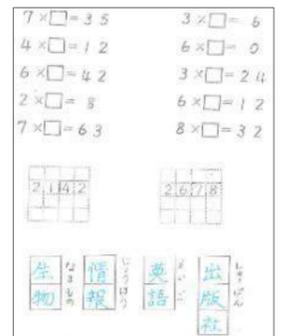


手立て前の児童のノート

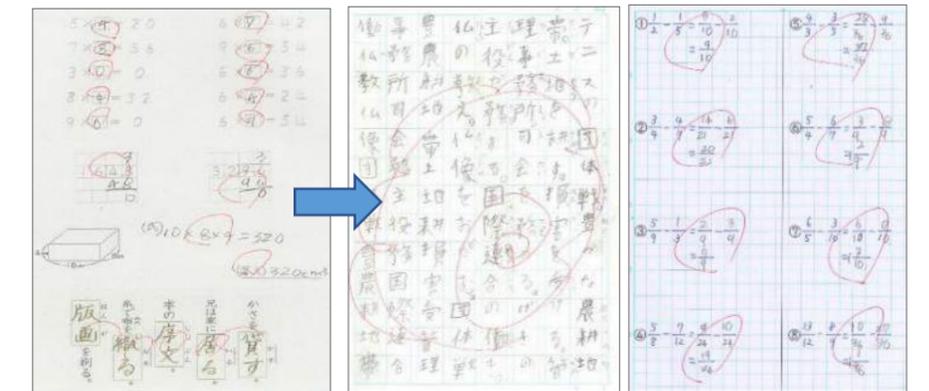
手立て後の児童のノート

効果のあった事例4 ~5年家庭学習~

- 児童の実態  
家庭学習の習慣が身に付いていない。文字を書くことに抵抗がある。九九を覚えていない。
- 手立て  
児童の実態に応じて宿題プリントを作成し、取り組ませる。(穴あき九九、簡単な小数のわり算、漢字のなぞり書き)
- 児童の変容  
九九を正確に覚え、簡単な小数のわり算ができるようになった。11月から算数の授業で学習している問題を取り入れる。  
2月になって、A児から「みんなと同じ宿題をしたい。」と言ってきた。他の児童と同じ宿題をしてもらうようになった。



A児の家庭学習プリント【4月~10月】



A児の家庭学習プリント【11月~1月】

A児の家庭学習【2月~】



吉田小学校では、「対話を機能させ 考えを深める学びづくり」という研究主題のもと、3年間、国語科の研究を進めてきました。

研究を進める中で、「言葉の習得」「漢字の習得」が、つまずきの大きい児童への学力フォローアップに重要であることが明らかになりました。

そこで、本校ではつまずきの大きい児童に対して、ことばの力を育む国語科授業づくり・個別の取組を重点的に行ってきました。



学校長

### チーム「百万一心」で！

#### 【主な取組】

- ① 実態把握・要因分析  
【各種テスト・アンケート・行動観察・家庭との連携等】
- ② つまずきの大きい児童の指導計画作成
- ③ 日々の実践（授業研究・実践交流）
- ④ 手立ての振り返り・指導計画の改善

手立ての工夫

実態把握・要因分析

個の変容

#### 【子どもたちの力を伸ばすために】

- 音読
  - 全員参加の国語科授業づくり
  - 漢字学習
- の充実に取り組みました。

#### 【取組の方向を同じにするために】

担任・学力FU教員との連携・相談を随時・計画的に行うとともに、研究部通信を定期的に発行するなどして情報提供・研究推進に努めました。



研究推進教員

語彙が少ない、漢字・熟語が苦手

#### 【つまずきの大きい子どもの実態と要因】

学習課題や学習活動を把握しにくい、情報を理解しにくい

学習意欲が低い

### 語彙を豊かにする取組

### 繰り返しによる定着

### 個に応じた学習

#### 数え方を表す言葉の学習

数詞・漢数字の読み・書きの定着のために、絵を見て「何がいくつあるか」を書き出す学習を行いました。



見つけた数詞や言葉を使った文を書くことができました。

#### 漢字ドリルの音読

漢字の定着のために、漢字ドリルの音読に、繰り返し取り組みました。

- ① 漢字ドリルの音読を全体・個人で繰り返す。
- ② ペアで読み合いを繰り返す。
- ③ 家庭学習で漢字ドリル音読を繰り返す。

友達と読み合うことが意欲を高めました。一文が短いので音読しやすく、どの児童も達成感を味わえます。この取組によって、教材文をすらすら音読できるようになるとともに、漢字テストの正答率がぐんと上がりました！



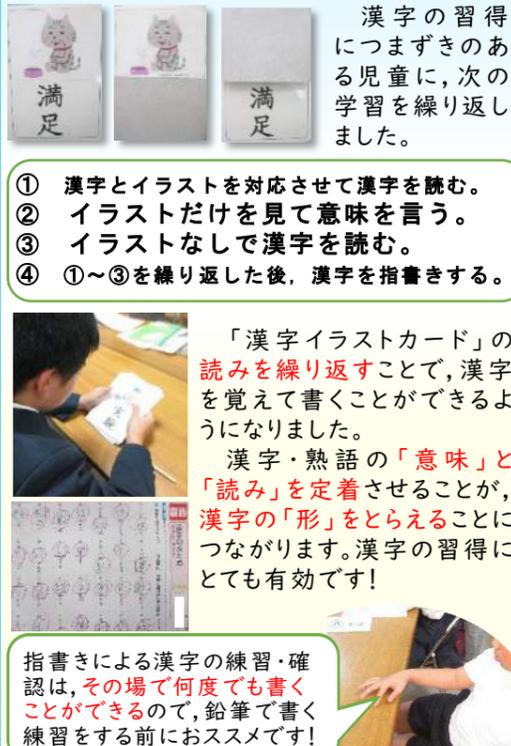
#### 漢字イラストカードの活用

漢字の習得につまずきのある児童に、次の学習を繰り返しました。

- ① 漢字とイラストを対応させて漢字を読む。
- ② イラストだけを見て意味を言う。
- ③ イラストなしで漢字を読む。
- ④ ①～③を繰り返した後、漢字を指書きする。

「漢字イラストカード」の読みを繰り返すことで、漢字を覚えて書くことができるようになりました。漢字・熟語の「意味」と「読み」を定着させることが、漢字の「形」をとらえることにつながります。漢字の習得にとっても有効です！

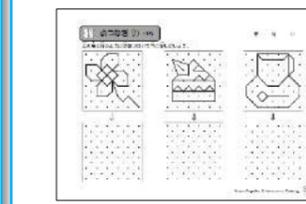
指書きによる漢字の練習・確認は、その場で何度でも書くことができるので、鉛筆で書く練習をする前におススメです！



#### 放課後がんばり勉強

放課後学習（45分間）を週3回行い、基礎・基本の力の定着を図りました。

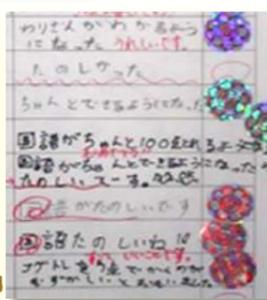
- ① 認知機能強化トレーニング
- ② 計算・文章の読み取り
- ③ 「漢字イラストカード」の読み
- ④ 家庭学習・自主学習
- ⑤ 振り返り



「点つなぎ」などの認知機能強化トレーニングは、時間を計ることで集中力が高まりました。学習の終わりに振り返りを記述することで、自分の学びを自覚することにつながりました。継続は力なり！

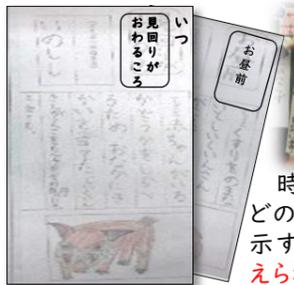
「分かった!」「できた!」と児童の顔がぱっと笑顔になる。その瞬間を重ねていくことが、やりきる力につながってきていると感じています。

学力FU教員



#### 時間的な順序を表す言葉の学習

時間的な順序（いつ）を表す言葉（「～の前」「～の後」「～すぎ」）に気を付けて、教材文の内容を読む学習を行いました。



時間的な順序を表す言葉が、1日のどの時間帯を表しているかを数直線で示すことで、言葉の意味を視覚的に捉えられるような支援をしました。

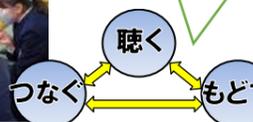
「午前」「午後」「正午」「お昼前」「お昼すぎ」「夕方」など日常的に使っている言葉の理解度がつまずきの要因になっていることもあります。言葉を丁寧に扱う授業づくりを指導者が意識することが大切です！

#### 学び合い

子どもに学びをゆだねつつ、適宜子ども同士をつないだり、教材にもどしたりして、子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりを行いました。



友達と困り感を共有しながら深い学びをめざします。



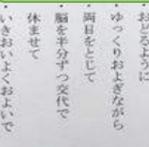
#### 文章の読み取りへの手立て

長文を紙1枚分に



教材文を1枚の紙面に表し、内容を把握しやすくしました。

選択肢の提示



説明文の学習では、中心となる言葉を焦点化できるように、選択肢を準備しました。

#### 個に応じた漢字練習

漢字練習ノートのマス目を個に応じたものにし、なぞり書きできるようにしました。漢字練習への抵抗感が少なく、家庭での学習習慣を育むのに効果がありました。



#### 【先生の声】

- ★「分かる・できる」が増えることで、子どもたちの自信と意欲が向上していくのがうれしいです。
- ★個を丁寧にみていくことが、授業改善につながりました。
- ★学校全体で協力する体制を続けていきたいです。

#### 【子どもの声】

- ★漢字や計算が好きになりました。
- ★ペアやグループで学習して勉強が分かりやすくなりました。
- ★今日できたことを振り返って書くのが楽しいです。
- ★勉強がどんどん分かるようになっていきたいです。

#### 【保護者の声】

- ★勉強しているとき「分からん!」と言っていたのが「えーっと、どうだったっけ?」に変わってきました。
- ★漢字や計算ができるようになって安心しています。

#### 【成果】

- ・漢字が苦手な児童の漢字テストの正答率が向上した。
- ・市学力テストにおける低学年の正答率40%未満の児童を減らすことができた。
- ・学習への意欲や自己肯定感が向上した。
- 【今後の取組】
- ・課題を焦点化・共有化し、組織的に取り組む。



研究主題  
**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**  
 ～個のつまずきの解消に向けた、指導法の工夫・改善～



授業の工夫  
 ～ユニバーサルデザインの授業づくり～

**動作化**

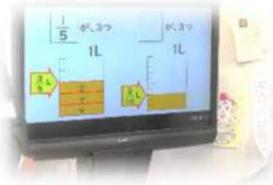
どの児童も授業に参加できるような問題提示の工夫



ペーパーを動かしながら、問題場面を説明する児童の様子（1年「3つのかずのけいさん」）

**視覚化**

色わけの工夫、板書とノートの対応 ICT の活用



「単位分数のいくつ分」のイメージを持たせるために用いたパワーポイントの様子（3年「分数」）

**焦点化**

本時のねらいを焦点化し、教材を工夫する。

効果のあった実践事例（6年）

【児童のつまずき】  
算数への苦手意識があり、自分の考えをもつことが難しい。

【手立て】  
①「2:3と同じ比になるソースの混ぜ方を4つから選ぶ」学習活動を設定する。  
②**選択肢を提示**し、答えを選ばせた上で、その理由を説明させる。

【変容の様子】  
「4つの選択肢から選ぶ」活動によって、学習に対する抵抗感が小さくなり、意欲的に学習できた。



- ①「レディネステスト」を実施し、児童のつまずきを把握する  
→つまずきの把握とその要因を分析し、児童の実態に沿った手立てを考える。
- ②学習指導案の工夫  
→1時間の**板書に基づいた授業の流れ**を示す。
- ③「理想のシナリオ」の作成  
→1時間の**授業の流れ（細案）**と考えられる児童のつまずきを具体的に想定する。  
→つまずきに基づいた手立てを具体的に設定する。  
→手立ての有効性、他学年や他単元に生かすことができる手立てや他に考えられる手立てがあったか、事後協議会で協議する。

取組後の児童の変容

【学力調査】正答率 **40%未満の児童の減少**  
 「標準学力調査 算数」における正答率 40%未満の児童の割合  
 H30年度：14.4%（59名）→ H31年度：10%（41名）

- 【全校での取組】
- ①ユニバーサルデザインの授業づくりを柱とした授業づくりの工夫
  - ②個に応じた指導の継続

【児童の声】  
 ・算数がだんだん面白くなってきました。  
 ・式や自分の考えが少しずつ書けるようになってきました。  
 ・図のかき方が分かって、できるようになってきました。

【児童アンケート】**学習意欲の向上**  
 「学校の宿題をしている」  
 H30：92.4% → H31：91.6% → R2：95.3%

「算数の授業の内容はよく分かる」  
 H30：84.2% → H31：87% → R2：86.2%

- 【全校での取組】
- ①放課後学習の実施
  - ②児童の実態に応じた宿題の工夫  
 ・量の調節  
 ・定着度に応じた内容の選択
  - ③授業づくりの工夫

【児童の声】  
 ・同じ宿題のプリントを繰り返してしたので、解けるようになり、自信ができました。  
 ・学校での勉強が分かったので、宿題自分ですることができました。



取組前の児童の実態

- 【学力調査より】
- ・低学年時に**正答率 70%未満の児童**は、高学年になって、正答率 40%未満になる傾向が大きい。
  - ・学力低位層（40%未満）の児童のつまずきが、**4年生から始まる**ことが多い。
- 【児童アンケートより】
- ・前学年からの**積み残し**による、算数への**苦手意識**がある。
  - ・分からない問題があり、**宿題ができない**。
  - ・授業中の説明が多く、分かりにくい。



個に応じた指導 ～放課後学習～

実施体制の工夫

- 【日時など】  
週3日（月・水・金）  
放課後の15分間（低・高に分けて実施）
- 【担当】  
推進教員・フォローアップ教員・担任外（必要に応じて担任も参加）
- 【内容】  
当日の宿題の一部  
※やり残した課題は行わない

「見える化」による意欲の継続  
 「がんばりカード」と「認定証」の作成



「がんばりカード」（左）と認定証（右）

参加した児童の感想  
 頑張るやうに思いました。褒められました。



個別学習での丁寧な指導

- ・「1対1」での指導を基本とする。（外国籍児童へは日本語指導教員が指導）
- ・児童のつまずきに応じて、前学年の学習内容なども復習する。

【参加した児童の感想】

- ・漢字や算数の勉強ができて、楽しかったです。
- ・宿題がちょっとずつ自分でできるようになりました。
- ・きれいに書いたら、褒めてもらえてうれしかったです。



# 三原市立沼田東小学校

## 親和性のある学習集団づくりはこれ！

### (1) 温かい教職員集団が温かい学校、学級をつくる！

- ☆「笑い合えるチーム沼田東」をスローガンに  
「みんなで支え合い、みんなで育てる」という意識を持つ。
- ☆職員室でのたわいもない会話を大切に  
授業づくり、学級づくり、生徒指導の解決方法のヒントがある。

### (2) 全教職員での支援と見守り！

- ☆担任のサポートとともに児童にかかわる  
朝の会から下校まで管理職を含めあいている教職員が各学級に入る。

### (3) 週2回の暮会10分間で児童交流！

- ☆対応策や困り感だけでなく、効果のあった手立てや取組を交流  
自分の指導にも活かしていく場とする。

## 指導力向上につながるのはこれ！

### 深い教材研究を！

最も大切なことは、教科書を熟読することである。

#### ①教材研究の在り方を工夫

みんなで1つの授業を作り上げていく共同教材研究を行う。

〈パターン1〉様々な会社の教科書を広げて「めあて」作りからともに研究する方法

〈パターン2〉1学年2クラスを活かし隣のクラスで実際に授業をしてもらったり、したりして指導案を見直す方法

#### ②協議会の持ち方を工夫

##### ○授業評価表の活用

主体的に参加するために、自分だったらどんな「めあて」にするのかという代案を考え協議を重ねる。

##### ○振り返りシートの記入

ポートフォリオ形式で「今日の学びを受けて、自分の学級でどのような取組ができるのか」「取り組んだ結果、効果のあった手立てや上手くいかなかった手立て」を記入して、協議会の時に交流し合う時間を設ける。

授業実践はこちら！

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/es-nutahigashi/jyugyokaizen.html>

## 学習意欲向上と学力定着はこれ！

### (1) 音読と範読の徹底！

- ☆音読・・・国語科だけでなく、社会科や理科の教科書を音読する。
- ☆範読・・・支援の必要な児童に内容の意味理解を図る。
- ☆読みを深めていく指導・・・常に教材文に立ち返り、自分の考えの根拠を明確にする。

### (2) 5つの視点を大切に！

#### 特に「めあて」と「まとめ」にこだわる授業を！

#### 5つの視点①必然性を感じる問題場面

各教科や総合的な学習の時間、行事や日常生活等、身近な場から問題場面を設定し、児童が学びたいという意欲喚起につなげる。

(具体的な問題場面)

- ・生活科での野菜づくりや秋みつけと関連させて考える場
- ・社会科で学んだ古墳と学校の運動場を比べおおよその面積を求める場

#### 5つの視点②「めあて」と「まとめ」の整合性

「めあて」の中に方法、手段を入れることで、思考の方向性が見えるので自力解決の際、解決しようと課題に向かうことができる。

(第4学年「折れ線グラフ」より)

- ×どちらの変わり方が大きいか説明しよう。
- たてじくの1目もりの大きさに着目して、どちらの変わり方が大きいと説明しよう。

「まとめ」では、主語を明確にして、「めあて」や思考過程と関連付ける。また、概念(考え方)と手続き(やり方)、この2つをセットで入れるよう意識する。

(第3学年「分数」より)

- 分数のたし算の計算の仕方は、10分の1のいくつ分で考えれば(考え方)、分子だけをたせばよい(やり方)。

#### 5つの視点③協働学習で学びの確かめ

自力解決した類似問題を解き、最初の全体で得た学びを伝え合う場とする。学びを再確認させることで確実な学力の定着を図るとともに、一人一人の児童に自信を持たせる。

#### 5つの視点④学びを追試する評価問題

目標の観点に沿った評価問題を解く。

【例】計算の仕方(思考・判断・表現)の評価の場合

36+4の計算の仕方を記述

- ①36を30と6に分ける。②6と4を合わせて10
- ③10と30で40と計算の仕方も書く。

#### 5つの視点⑤効果的な教材・教具の作成



第1学年「空き箱を活用して10の合成」

第2学年「九九ビンゴで九九の定着」

全年齢「漢字ビンゴで漢字の定着」

## 効果のあった実践事例

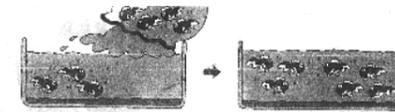
### 第1学年「ひきざん(2)」より

#### 〈児童の躓き〉

- ・算数科の問題作りでは、加法・減法ともに問いの文が適切に表現できない。

#### 〈問題〉

えをみて、 $3+4=7$ のしきになるおはなしをつくろう。



〈変容前の児童の解答〉  
さんびき いました。  
そこに 4にんきました。

〈変容後の児童の解答〉

- ①かきが 12こ になっています。
- ②さるが 6こ もちかえりました。
- ③のこりは なんこになりますか。

#### 「3文に分けて描いた対象児童の絵」



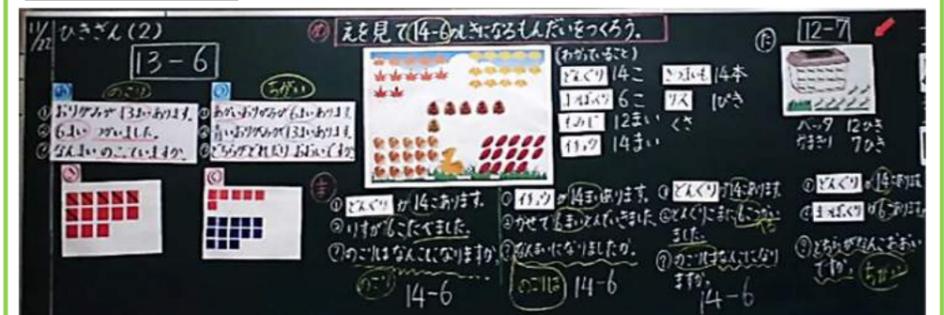
#### 〈手立て〉

- 長いスパンを通して
  - ・教師が書いた模範文をなぞる。写す。声に出して読む。
  - ・問題文を3文に分けて提示し、3文目は問いの文になることをパターン化させる。
  - ・児童の好きな食べ物や虫、キャラクター等を登場させた問題を個別に出して取り組ませる。
- 単元を通して
  - ・国語科との関連を図り、「昔話から算数紙芝居を作ろう」という具体的なゴールの設定を行う。
  - ・毎時間場面絵からお話を作る活動を積み重ね、「①既知数 ②既知数 ③問いの文」の3文で問題文を書くことを徹底する。
- 本時を通して

導入の工夫 ①問題提示は一文ずつ。②自力解決の手立てとなる問題を扱う。

解決意欲を引き出す工夫 ①めあての設定の仕方を工夫する。  
②児童が生活科で体験した活動をもとにする。

ペア学習の工夫 → 改善点を教え合う「こうしたらいいよ。」



# 尾道市立因島南小学校

因島南小学校では、3年間「基礎的・基本的な学力を定着させる授業づくり」という研究主題のもと、学力テスト等で特に課題の大きかった算数科を中心に研究を進めてきました。本校では、学力に課題のある児童のつまずきの要因分析に重点を置き、教職員全員での組織的な分析、課題克服のための手立ての開発に取り組みました。

※1・2  
「因島南小学校算数科系統表」「児童の分かり方の特性」は因島南小学校HPに掲載しています。

## 組織的な取組

### I 因島南小授業スタイルの徹底

**つかむ**  
問題把握だけではなく、解法や答えの見通しまで持たせ、「どのように」「どうやって」課題解決をすればよいかを確認する。

**つかむ**  
○問題把握に関すること  
・分かっていること・求めること・単位の確認  
・前時との比較(共通点・相違点)  
○解法や答えの見通し  
・概算事項で使えそうな考え方や方法  
・答えの見通し

**めあての設定**  
○前時との違いから ○学びの必然性 ○まとめの整合

**自力・(小)集団解決**  
つかむ場面で得た見通しをもとに自分なりの考えを持って主体的に最後まで学習に取り組み、他者との練り合いで理解を深める。

**振り返り**  
本時の学習について、自分の学びを客観視し、次の学習へとつなげるメタ認知の場とする。

**算数の授業展開例**

**問題把握**

**つかむ**

**めあての設定**

**自力・(小)集団解決**

**振り返り**

**まとめ**

**振り返り**

**振り返りポイント**

「友達につなげる話し方」  
①言い換える  
②付け加える  
③質問する  
④異なる意見を出す  
⑤よりよくなる  
⑥関連付ける  
⑦詳細にする  
⑧変容・発見を言う  
⑨まとめる  
⑩発展させる

「育てたい聞き方」  
①正しいか ②言いたいこと・よいところ  
③よりよくできないか ④関係づけ ⑤発見・学びの深まり

「ふりかえりポイント」  
①今日の学習で分かったこと  
②友達の考えと比べて気が付いたこと  
③これまで学習したことの中で活用できたこと  
④疑問に思ったことやもっと調べてみたいこと  
⑤生活の中のどこで使えるか

### II 系統表を活用した「つまずき」の分析

通分のためのかけ算九九から課題が見られる。

3, 4年生での分数の意味理解が不十分なのでは？

因島南小学校算数科系統表(※1)

学年	単元	内容	学習目標	評価
1年	算数	数の数え方	100までの数を読み、書き、数え、比べ、分け、つなぐ。	100までの数を数え、比べ、分け、つなぐ。
		数の大きさ	100までの数の大小を比べ、分け、つなぐ。	100までの数の大小を比べ、分け、つなぐ。
		数のつなぎ	100までの数のつなぎ、分け、つなぐ。	100までの数のつなぎ、分け、つなぐ。
		数の分け	100までの数の分け、つなぐ。	100までの数の分け、つなぐ。
2年	算数	数の数え方	1000までの数を読み、書き、数え、比べ、分け、つなぐ。	1000までの数を数え、比べ、分け、つなぐ。
		数の大きさ	1000までの数の大小を比べ、分け、つなぐ。	1000までの数の大小を比べ、分け、つなぐ。
		数のつなぎ	1000までの数のつなぎ、分け、つなぐ。	1000までの数のつなぎ、分け、つなぐ。
		数の分け	1000までの数の分け、つなぐ。	1000までの数の分け、つなぐ。
3年	算数	数の数え方	10000までの数を読み、書き、数え、比べ、分け、つなぐ。	10000までの数を数え、比べ、分け、つなぐ。
		数の大きさ	10000までの数の大小を比べ、分け、つなぐ。	10000までの数の大小を比べ、分け、つなぐ。
		数のつなぎ	10000までの数のつなぎ、分け、つなぐ。	10000までの数のつなぎ、分け、つなぐ。
		数の分け	10000までの数の分け、つなぐ。	10000までの数の分け、つなぐ。
4年	算数	数の数え方	100000までの数を読み、書き、数え、比べ、分け、つなぐ。	100000までの数を数え、比べ、分け、つなぐ。
		数の大きさ	100000までの数の大小を比べ、分け、つなぐ。	100000までの数の大小を比べ、分け、つなぐ。
		数のつなぎ	100000までの数のつなぎ、分け、つなぐ。	100000までの数のつなぎ、分け、つなぐ。
		数の分け	100000までの数の分け、つなぐ。	100000までの数の分け、つなぐ。

### III 児童の分かり方の特性を踏まえた手立ての開発

継次処理能力優位の児童にはスモールステップでの手立てを提示してみたら？

問題場面理解には視覚的な支援が有効だと考えられる。

考える順序	継次処理	一つ一つの部分を順番に考え、それをつないで全体を考えること
	同時処理	全体をおおまかにイメージし、部分と部分の関係で考えること
理解・認知する方法や能力	聴覚・音韻認識	聞いて学ぶこと 単語がいくつの音のかたまりに分かれているかが分かる 単語でどの音がどの順に並んでいるかが理解できること
	言語視覚・空間認知	読んで学ぶこと 象形視覚・空間認知 見て学ぶこと
	体感覚	体感したり、行動したりして学ぶこと
	ワーキングメモリ	情報を保持し、同時に処理すること
	長期記憶	知識や経験として長期的に保持
	短期記憶	聴覚的短期記憶...音声で表現される情報を保持 視覚的短期記憶...目で見えた情報を保持

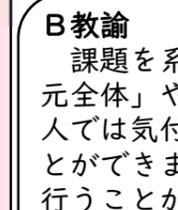
児童の分かり方の特性(※2)

小学校6年間の算数科の学習内容と、児童の考える順序や理解・認知する方法や能力などを系統的に整理しました。児童のつまずきの分析や個の特性に合わせた手立ての開発を進めるために活用しました。

## 本研究を通しての教職員の声



**A教諭**  
「つかむ」において、児童を同じ土俵に立たせた上で自力解決につなげるというスタイルは、算数科だけではなくすべての授業に生かすことができると分かりました。今後の授業づくりも役立つと感じました。



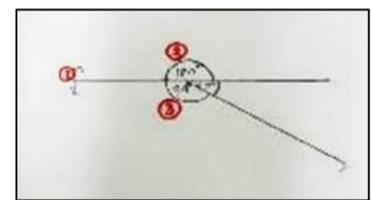
**B教諭**  
課題を系統的に捉えることで、協議では「単元全体」や「他の単元」などの発言が増え、一人では気付けない見方から、手立てを考えることができました。学年間や異学年間での交流を行うことができ、教員同士の情報共有につなげることができました。



**C教諭**  
児童の分かり方の特性を意識した授業づくりを通して、「視覚的支援の効果が高い」と安易にICT等を取り入れることは逆効果であり、指導者の意図と児童の特性を踏まえて活用していくことが重要であると共有できました。

## 具体的な実践事例

第4学年算数科「角」の授業  
つまずき  
角の大きさが辺の開き具合によって変わるということが理解できない。また、角の大きさを測定する手順が定着しづらい。  
手立て  
辺の開き具合を捉える教具「角度器」の活用。測定する手順をスモールステップで整理し、作業手順ごとにナンバリングする。

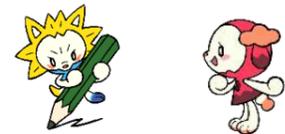


児童の変容  
教具を使うことで、問われている角度が表している範囲(辺の開き具合)を認識できるようになった。整理された作業手順のナンバリングをもとに自力で角度を測定し、測定方法を言語化することができた。



# 研究主題 主体的に学び続ける児童の育成

—学習者全員が自分ごとの課題として探究することのできる単元構成と発問と個への手立ての工夫を通して—



## 本校の児童の課題

- 基礎学力の定着が不十分。
  - 生活体験、読書量の不足などによる語彙量の不足。
  - メディアに費やす時間が多いため、家庭学習が未定着。
  - 自己効用感が低く主体的に学習に取り組めない。
- という課題を受け、国語科を中心に特に□個のつまずきの実態把握と要因分析  
◇視覚化・焦点化・共有化による手立ての工夫  
を視点に授業改善に取り組んだ。  
また、授業以外ではドリルタイム・チャレンジカード・放課後補充学習等を行うことで、課題の克服に努めた。

### 研究の柱①

単元構成の工夫

### 研究の柱②

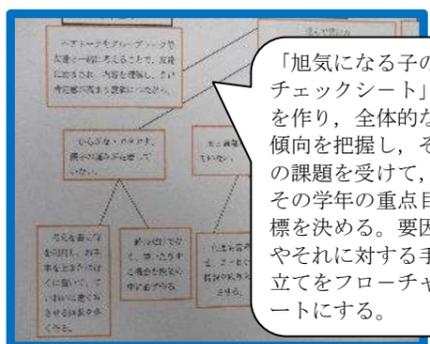
発問の工夫

### 研究の柱③

個への手立ての工夫

## (1) 個の実態把握と要因分析

### 要因分析フローチャート



### 学習の系統性 (例 第1学年説明文)

読みの系統 読みの技能 読みの用語

第1学年

くちばし

じどう車くらべ

どうぶつのおしゃべり

単元の付けたい力の系統性を明確にする。

### 要因分析シート

【学力に課題のある児童のつまずきの実態とその要因と手立て】

学年	1年	2年	3年
読みの技能	読みの技能		
読みの用語			
読みの系統			

付けたい力に絞り、レディネステストやノート、授業の様子、アンケートなど様々な方法でどの段階でつまづいているかを把握する。

実態把握から、具体的な手立てを考える。

## (2) 視覚化・焦点化・共有化による個別の指導の工夫

### 視覚化 (文章を見える化)

(具体物・動作化・色分け・構造化された板書)

#### 第1学年「じどう車くらべ」

- Point: 比較しやすいように3つの事例を縦に並べた一枚ものの教材文にする。
- Point: 事例を色分けし、文章構成を理解させる。
- Point: 児童用のワークシートと板書を同じものにする。
- Point: どこを読んでいるか、書いているのが分かるように目印をつける。
- Point: 写真や具体物等を活用して、イメージ化させる。
- Point: 教師が考えを引き出して文章にして、写させる。
- Point: 構造化した板書にする。
- Point: 自動車図鑑づくりでは、何度も同じパターンで書かせ、書き方を理解させる。

### 焦点化 (何をどう考えるか)

(会話やキーワードの数を数える・重要度を考える・選択肢から選ぶ等)

#### 第2学年「スイミー」発「どの会話が一番大切？」

Point: 出てくる4つの会話文の中でどれが一番大切かを考えさせることで、詳細を読む。名前磁石を使い、考えをはっきりさせる。対象児童には、自分の考えに近いヒントカードを選ばせ、考えを書かせる。

#### 第4学年「ごんぎつね」発「ごんがしたつぐないはいくつ？」

Point: ごんがしたつぐないの数を数えることでごんの心情の変化を捉える。数えることで授業に全員参加でき、自分の考えをもつきっかけになる。

#### 第6学年「帰郷道」発「『行こっか。』は『律』『周也』のどちらの言葉？」

Point: どちらの言葉が考えることで二人の心情の変化を捉え、人物像を明らかにする。考えることを焦点化させ、今までの読みを統合して考えさせる。

### 共有化 (誰もが伝え合える工夫)

(様々なグループ活動の工夫・効果的な言語活動)

#### 第1学年「うみのかくれんぼ」

Point: 「かくれんぼめいじんはどれ？」グループで話し合った考えを動作化する・図に書き込む・具体物を使うなど児童に表現方法を選ばせることで、理解を深める。

#### 第2学年「お手紙」

Point: 児童の読み取った人物像や相互関係をもとに、教材の会話文に新たなセリフを加え、音読劇を行う。

#### 第3学年「まいごのかぎ」

Point: 自分の解決したい課題別(うさぎはどうして最後にこれの前にあらわれたのか・かぎが消えたのはなぜか・よけいなこととは)でグループになり、話し合う。

#### 第5学年「固有種が教えてくれること」

Point: 「一番大切な資料は？」という課題に対して同じ考えの友達どうしてグループになり、そう考える理由をホワイトボード等を使い考える。

### ドリルタイム

楽しく語彙を増やす取組や基礎学力を身に付ける取組を行っている。

#### ことバンク Day

かりかりDay 百人一首 ワードスナイパー

よむよむDay おごろくトーク ワードバスケット ごい夢中

### 教材ルーム・教材フォルダーの共有

児童の理解に有効だった教材教具をみんなで共有し、さらにバージョンアップできるように教材ルームや教材フォルダーを作り、活用している。

### 全校体制での宿題チェック

児童の理解度を知り、その日のうちに直しをさせることで、やり切る力を付けると共に基礎学力を身に付けさせることをねらいとして、宿題点検と直しを全校体制で取り組んだ。担任だけでなく第1, 2学年は研究推進教員, 第3, 4学年はFU教員, 第5, 6学年は管理職と教育上特配員で見る。

### チャレンジカード (家庭学習強化週間)

チャレンジカードを使い、学習習慣を身に付ける取組を行っている。保護者と連携して学期に1回、1週間強化週間を実施している。

- ・起きる時刻
- ・テレビ・ゲームの時間2時間以内
- ・寝る時刻
- ・決められた時間学習する。
- ・宿題をやり切る。

### 放課後補充学習 (寺子屋あさひ)

#### 学習意欲の向上と家庭学習の習慣化

- ・「寺子屋あさひ」と称して、週3回の放課後補充学習を実施する。
- ・宿題を中心にした復習や、つまづいているところを二人の指導者が教える。分からないところは教えるだけでなく、学習の仕方を教えるように支援する。
- ・目標や振り返りを書いた「ぐんぐんカード」を、毎回先生や保護者が評価することで自分の成長を実感させ、自己効用感を高める。

## 対象児童の変容

○単元テスト全国平均との差 (%)

教科	H30	R 1	R 2	年度差
国	-17.3	-9.3	-12.8	+4.5
算	-16.7	-14.7	-14.1	+2.6

○意識アンケート (%)

	H30	R 1	R 2
進んで学習する	50.0	58.3	54.5
分かるまで努力する	40.0	42.0	45.5

○チャレンジカード (%)

	H30	R 1	R 2
家庭学習の定着	16.6	61.0	63.6

### 対象児童の声より

漢字をていねいに書いたことをほめると「昨日までのおれと今日のおれはちがう。」と、自信たっぷりの声で一言。

ある児童がドリルの一問目から「分からん。」とつぶやくと、隣の子が「最初からあきらめてどうするん。できないと思ったらできない。できると思ったらできる。」と一言。

このように、学習に前向きな児童が少しずつ増えてきた。

### 「寺子屋あさひ」での様子

寺子屋に来ると、ぐんぐんカードを出し、宿題をもくもくとやり始める。分からない問題があると教科書を開いて調べている。どうして分からないときは「先生分かりません。」と聞くようになってきた。

### 寺子屋あさひ児童アンケート

- ・いっぱい先生におしえてもらえるから、うれしい。
- ・家では、いつまでたってもしゅくがでできないけれど寺子屋に入って、わからない問題でもあきらめずにできるようになったから、楽しい。

## 学びを支える環境



# 世羅町立せらにし小学校

## 【本校の実態】

- ・学びに向かう姿勢が確立している。
- ・問題の場面で理解できない。
- ・既習事項を活用できない。
- ・問題から正確な情報を取り出し、整理できない。
- ・自分の言葉で表現できない。

## 【本校の取組】

- 本校の強み（学びの基盤作り）を継続する。  
→小中9年間を見通して、「せらにし学びの7か条」（学習規律定着のための7つのポイント）を中学校とともに取り組む。
- 児童の実態から、必要な手立てを考える。  
→「個別の支援シート」「シミュレーションシート」を活用し「視覚化」「焦点化」「共有化」の3つの視点から授業改善を図る。

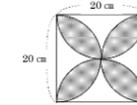
## 【取組の成果】

- 「個別の支援シート」を作成することにより、児童の実態把握からつまずきを予想し、より具体的な手立てを考えることができた。学年が上がった際には、「個別の支援シート」をもとに学習の段階を把握することができた。
- 「シミュレーションシート」を校内研修で活用することで、全員が自分ごととして研修に参加することができた。つまずきに対してどのような手立てがあるか、あらゆる方向から考えていくことで、各自の授業改善に活かすことができた。
- せらにし授業スタイルにおいて、「視覚化」「焦点化」「共有化」の3つの視点を明確にしたことで、児童のつまずきの要因から支援を考えることができた。

（児童）「分かる」「できた」と感じさせることができ、それが学校生活の自信へとつながった。  
（教員）日頃から児童の状況を見取り、つまずきの要因を探るようになった。

# せらにし授業スタイル【第6学年「円の面積」の実践】

## 問題



葉の形の面積を求めよう。

## 児童Aの場合

### 教師の役割

#### 実態把握

- ・レディネステストから既習内容の定着度や未履修内容の理解度を把握する。

#### つまずき分析

- ・単元内容のつまずきを予想したり、つまずきの要因を分析したりする。

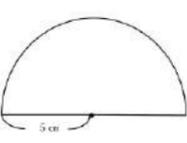
#### 手立て

- ・つまずきを解消する手立てを考える。
- ・見えない考え方を見えるようにする。

#### 結果

- ・学習ノートの内容を考察する。
- ・授業の振り返りを記入する。

### 児童の実態



おうぎ形のまわりの長さを求めたり、円周から半径を求めたりすることが難しい。

- ・正方形の中におうぎ形や二等辺三角形を見つけることができない。
- ・実物の図形と図形を付け加えたり、取り去ったりしないとどんな形になるのか分からない。

- ・葉の形やおうぎ形、二等辺三角形、正方形の紙型を動かして、葉の形の面積を求める方法を見つける。



$$100 - 78.5 = 21.5$$

$$21.5 \times 2 = 43$$

$$100 - 43 = 57$$

- ・おうぎ形や三角形を重ねたり、移動させたりしたら、どんな形になるのかが分かり、葉の形の面積を求めることができました。
- ・最初は、まったく分からなかったけど、友達の説明を聞いたら、いろいろな求め方があることが分かりました。
- ・葉の形は、知っている形に置き換えたり、図で考えたりすると、求めることができました。

## 授業改善につながる「個別の支援シート」

児童の実態からつまずきの要因を分析し、手立てを記入する。

算数科	6年	氏名	
単元名	円の面積 ～ケーキの大きさは同じ～		
学習のめあて	葉っぱの形の面積の求め方を考え、説明しよう。		
学習問題	ケーキに四つの葉の模様でデコレーションをします。チョコレート1枚で、だいたい300cmぬれます。この模様を作るには、チョコレート1枚で足りるでしょうか。		

既習学習の内容	児童の実態	予想されるつまずき	具体的な手立て	補充学習等の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>(2年生) 正方形、長方形、直角三角形の意味と性質</li> <li>(3年生) 二等辺三角形、正三角形の意味や性質</li> <li>(4年生) 円の中心、半径、直径</li> <li>(5年生) 平行四辺形、ひし形、台形の性質</li> <li>(5年生) 長方形、正方形の面積の求め方</li> <li>(5年生) 三角形、四角形の面積の求め方</li> <li>(5年生) 円周の長さ、円周率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おうぎ形や三角形の面積の求め方を覚えておくことができない。</li> <li>正方形の中におうぎ形や二等辺三角形を見つけることができない。</li> <li>実物の図形と図形を付け加えたり、取り去ったりしないとどんな形になるのか分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正方形の中におうぎ形や二等辺三角形を見つけることができない。</li> <li>おうぎ形の面積の求め方を求められない。</li> <li>どの形の面積を求めたら、葉の形の面積を求められるのか分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長方形や正方形の面積を計算できるように練習する。</li> <li>ICTを活用して、正方形からおうぎ形や二等辺三角形を取り去ったり、付け加えたりして、葉の形の面積を求める方法を見つける。</li> <li>面積の求め方を図と式にまとめさせる。</li> <li>共有化</li> <li>自分の考えと友達との考えはどんな違いがあるのか考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長方形や正方形の面積を計算できるように練習する。</li> <li>三角形や四角形の面積を計算できるように練習する。</li> <li>円周の長さや円の面積を計算できるように練習する。</li> </ul>

### 視覚化

見えないものを「見える化」し、児童のイメージをわかりやすくさせる。

### 焦点化

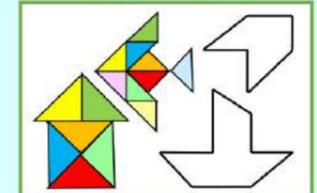
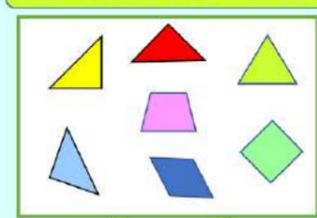
児童にねらいを達成するための見通しをもたせたり、「ゴールイメージ」をもたせたりする。

### 共有化

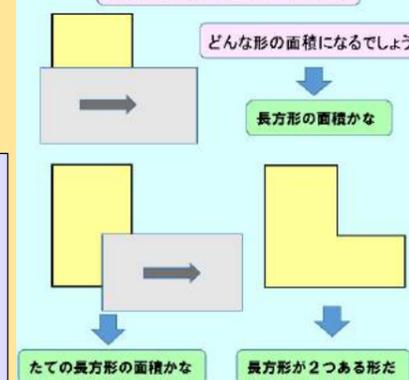
互いの考えを伝え合ったり、確認させたりする。

## 高学年でのつまずきを解消する下学年での図形領域の指導の工夫

### 図形の合成・分解 第1学年



### 面積の求積（分割）第4学年



はじめは長方形かなと思っていたら、長方形が二つ合わさった形でした。でも、長方形の面積の求め方を使ったら面積を求められることが分かりました。

【中学年】色分けしたり、見え方を工夫したりして、既習の図形が見えるように支援する。

【低学年】中・高学年で既習の図形に着目できるようにするために、具体物を使った算数的活動に取り組む。

## 授業改善につながる

### 「シミュレーションシート」

児童の実態から、効果的な手立てを記入する。児童役としてシミュレーション授業を受けた担任以外の教職員が改善案を記入する。⇒自分の学級の授業改善にも活用

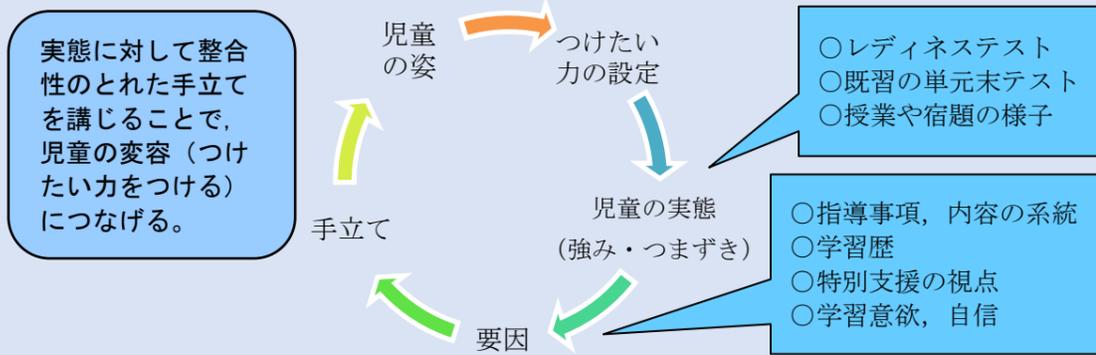
### シミュレーションシート 第6学年算数科「円の面積」

◎本時の目標 多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考え、求め方を説明することができる。

予想されるつまずき	手立て	別案・修正案
既習の図形の面積をどう活用すれば良いか分からない。	複合図形の中に見える図形を全体で共有した上で、色分けした図形を配布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形を動かしたり、重ねたりできるようにICT機器を活用する。</li> <li>前提を揃えるために、既習の面積を全員で確認しておく。</li> </ul>
複合図形の中に、どのような図形が含まれているか分からない。	トレーシングペーパーを活用し、既習の図形が複合図形のどの部分にあたるか見えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形を動かしたり、重ねたりできるようにICT機器を活用する。</li> </ul>
考えた過程をわかりやすく説明することができない。	計算した手順通りに説明できるように、図形と式に番号を付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>式の下に、図を描かせることで、説明する際の手立てとする。</li> <li>全員に図形を配布することで、考え方を共有できるようにする。</li> </ul>

## 1 つまづきに着目した授業改善5つのポイント

### ① つまづきの要因分析サイクル



上図の「つまづきの要因分析サイクル」に従って、児童の実態や要因分析を教職員全体で行う事が重要。単元でねらう目標(つけたい力)に沿った実態の把握とその要因分析を基に、克服のための手立てを導き出す。これら一連の分析の整合性が取組の成否を分ける。

### ② 強みを生かす

実態把握においては、系統性や学習歴の特徴などからつまづきを見つけ出すことは重要であるが、その一方で、児童の強み(特性や興味関心・得意な学び方)を生かし支援していくことも、児童の学びを支える大きな力となる。

### ③ 学び方・学習の自己調整力を育成する(自由進度学習)

自由進度学習とは、予め準備された教材を用いて、児童が自分なりのペースや向かい方で主体的・自立的に学び進める学習方法である。本校では、自由進度学習に取り組むことで、学び方や自己調整力が育ち、主体的な学びの育成に繋がると考え、取り組んでいる。案外、学び方が身についておらず、取組の見通しに困っている児童が多い。

### ④ UDの視点・特別支援の視点の活用

学習内容の本質を見極め、ねらいや活動を絞る「焦点化」、論理やイメージを見える化する「視覚化」、一人一人の学びを広げみんなのものにする「共有化」等、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりや、ワーキングメモリの観点から言葉とイメージのマッチングを図る等の特別支援教育の視点を取り入れた学習方法の工夫は、大いに役立つと感じている。

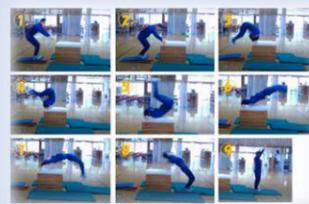
### ⑤ 学習環境づくり

実物や体験、掲示資料等、学習環境は児童の好奇心を刺激し、学習や活動を誘発してくれる。恐るべしである!

#### 3年算数科「あまりのあるわり算」

「余りが小さい方が勝ちカードバトル」の場を学習環境として設定し、余りの数の勝負をするゲームとして楽しんでわり算の計算ができるようにする。

#### 4年体育科「器械運動(マット・跳び箱運動)」



ICT環境を整える。指導者の見本を録画し、いつでも確認できるようにする。また、タブレットで自分の練習の様子を録画し、ふり返ったり、技のコマ送りの掲示シートと見比べたりしながら、ポイントアドバイスをあえるようにする。

ICT環境を整える。指導者の見本を録画し、いつでも確認できるようにする。また、タブレットで自分の練習の様子を録画し、ふり返ったり、技のコマ送りの掲示シートと見比べたりしながら、ポイントアドバイスをあえるようにする。

## 2 効果のあった事例

### 3年算数科「ミニ発表会のならび方をていあんしよう!(あまりのあるわり算)」

#### ○つまづきについて

- ・20÷4になる問題作りにおいて、かけ算になる問題を作るなど、わり算の意味理解が不十分である。→どのような場合にわり算を使うのかや包含除と等分除のちがいが分からないため。
- ・35÷4=8あまり3の、8や3の単位が分からない。→問題文から場面をイメージすることが苦手であり、数とのマッチングができていないため。

#### ○手立て1について(②強みを生かす)

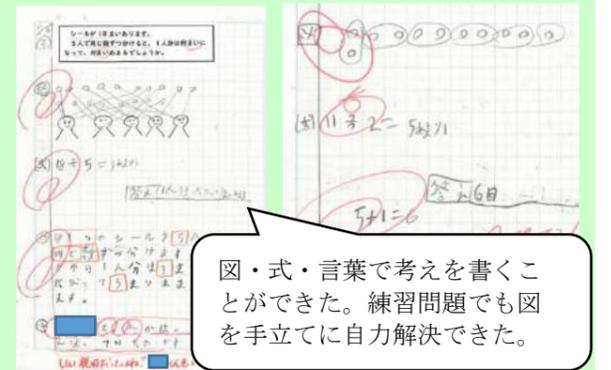
- ・文章問題を対象児童が好きな魚に関する問題や3年生の自分たちが長いすに座るとしたら…等の文脈にし、問題場面が具体的にイメージしやすくなるように工夫する。
- ・絵や図を描くことが得意であるため、丸図をかくことを問題場面把握の際の手立てとし、立式やその意味、単位を考えるための足場とさせる。

#### ○手立て2について(④UDの視点・特別支援の視点)

- ・前時との処理の仕方の違い(本時は、商と余りではなく、みんなが座るためのいすの脚数が問われていること)が焦点化できるよう、仮の問題を出した後、改めて題意の分かる問題文を提示する。
- ・余りを切り上げて処理する授業では、問題文を提示しながら、一列目だけ丸図をかき、問題場面を捉えさせるとともに、自力解決の際に、この提示した丸図の続きをかいて考えるよう助言する。

#### ○個の変容について

- ・文章問題では、文を読んで場面を正しく理解することが難しく、問題文には何が書かれているか、何を聞かれているのかを理解しないまま、問題にある数字を頼りに思い込みで解くこともあった児童だが、図をかくことが意味理解や計算の手立てになると実感できたようで、図を自分の考えの根拠にして、授業で何度も発表することができた。練習問題でも、「全部のボールを運ぶから、もう1回たす」と意味を理解して自力解決できた。
- ・テストでも余りを切り上げるのか切り捨てるのかを自分で判断し、解決できた。(知識・技能85点、思考85点)



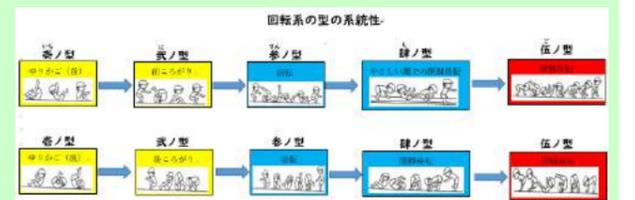
### 4年体育科「習得せよ! マット・跳び箱の呼吸 壱ノ型!!(器械運動 マット・跳び箱運動)」

#### ○つまづきについて

- ・マット運動や跳び箱運動を32%の児童が苦手と感じている。→恐怖心で挑戦することが難しかったり、人前で披露することに抵抗感があったりするため。
- ・与えられた方法で練習することはできるが、自分から考えて必要な練習方法を選んだり、工夫したりすることに課題がある。→技の習得のために何をすればよいか分からないかったり、教師や友達の演技からポイントとなる点を見付けられなかったりするため。

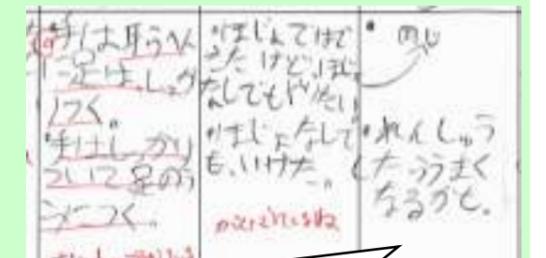
#### ○手立てについて(③学び方・学習の自己調整力を育成する(自由進度学習))

- ・児童の好きな「鬼滅の刃」を取り入れ、基本の技に取り組む「炭治郎コース」、発展技に取り組む「柱コース」など、児童が楽しみながらも本質的な学びができるよう単元を構想する。
- ・技の系統性表を作成し、児童と共有する。それにより、見通しを持って、課題を選択(「前転ができるようになるには、ゆりかごから練習しよう」等)し、学習の自己調整をしていくことができるようにする。



#### ○個の変容について

- ・本人が思う存分にできる自由進度学習の強みが生かされ、自分が納得いくまでとことん同じ技を練習する姿が見られた。2分間に7回も技を練習するなど運動量も増加した。
- ・1学期にマット運動を行った際、上手くできないことに加え、それを見られてしまうのも嫌で、練習に参加できなかった児童が、最初から最後まであきらめずに学習することができた。一人で練習し、できる!と自信が出てきたところで友達と共有し始めた。



「手は耳らへんにつく」「ほじょなしでもやりたい」「れんしゅうしたらうまくなるかも」等、技のポイントや意欲を書いている。

ユニバーサルデザインを基盤とした授業改善

児童に問いをもたせる発問の工夫

児童が「だって…」と説明したくなるような問題提示の工夫

- ・条件不足・情報過多の問題
- ・一部を隠して提示
- ・ゲームやクイズ等
- ・あえて誤答を提示



児童の「あれ？」「え？」を引き出す発問の工夫

- ・本当にそれでいいの？
- ・これはいつでも言えることかな？
- ・どのように考えたのかな？
- ・何か使えそうな考えはない？

思考のスタートラインを  
そろえる

全員が授業に参加できる  
ようにする

児童の学習意欲を喚起  
させる

イメージ化を促す手立て

イメージ化＝表現様式の変換・具体化

抽象的な表現(問題文・式)→具体的な表現(図や操作, 言葉)へと変換

- ・ICTの活用(デジタル教科書の活用)→見えにくい動きを見える化
- ・板書の工夫(児童の思考の流れに沿った板書)
- ・図や絵で表現
- ・図や絵で表現されたものを選択
- ・動作化, 具体物(半具体物)の操作
- ・挿絵の活用



<ICTの活用>

<具体物の操作>

伝え合いの手立て

- 続きの思考 … ある子の発表の一部分を聞いて, その続きを考え説明させる。
- 再現 … ある子の発表の中身を説明させる。
- ヒントからの思考 … ある子に自分の気付きのヒントを出させ, 何に気付いたかを考え, 説明させる。

子どもが語る相手は子ども



聴き合い

認め合い

深める

個のつまずき分析(全体研修)

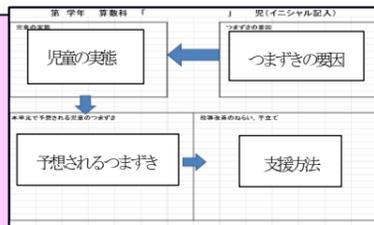
分析シート・動画を活用した分析研修

授業研前に必ず実施

- 児童のレディネステスト, ノートやテストのコピー, 授業での様子を撮影した動画を活用。
- 資料をもとに, 児童がどこにつまずきを感じ, その原因はどこにあるのかを分析。分析結果から, つまずきを想定した本時での支援内容を全教職員で共有。

教職員の意識統一

- 「めざす子どもの姿」「どの子ども主体的に学べる授業のイメージ」の共有化。
- 「本時の目標」「学習課題(めあて)」「評価」の整合性。



授業改善

つまずき分析  
支援内容の共有



振り返り

実態把握

これまでの児童の実態

- ▲学習に対する負のサイクル  
授業が楽しくない→学習意欲がわかない→どんどん分からなくなる→算数を苦手と感じる児童の増加→授業が楽しくない→…
- ▲全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、「学習の積み重ねがない」「問題文の意味が分かっていない」「無回答が多い」ということが分かった。  
→正答率40%未満の児童の割合は約30%
- ▲三次市学力到達度検査(算数科)では, 三次市平均と全国平均のいずれかを下回る学年が6学年中4学年だった。

H30 算数	全国	市内	本校
1年	82.3	88.8	92.8
2年	74.3	82.3	85.6
3年	73.3	79.7	75.8
4年	72.0	80.8	73.8
5年	63.1	71.1	56.6
6年	73.1	78.8	73.8

どちらも上回っている

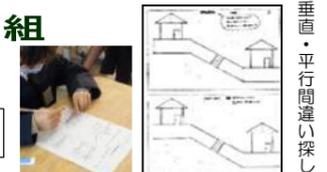
両方または, いずれかを下回っている

このような実態から…

ドリルタイムの取組

- 算数科を「楽しい」と感じられるような教材の開発。  
→三年次は国語科へも拡充
- 国語科の読解力・語彙力を育成する課題。
- 式→図, 文→図を行き来するような課題。

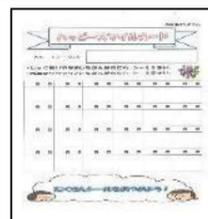
毎週実施



垂直・平行間違い探し

個に応じた取組

- ①ランチタイムスタディ(LTS)  
・給食準備中(15分間)の学力補充。学習のつまずきを少しでも解消し, 学習に意欲的に向かえるように支援。
- ②放課後学力補充  
・低学年を対象に実施。課題を最後までやり遂げる力を育成。  
・ごほうびシールを用いて, 意欲が持続するように工夫。



子どもの姿を中心にした協議会

授業動画を活用した協議会

- 児童の様子を中心に授業の様子を撮影。
- 動画を見ながら「児童にとって, 本時の手立ては有効であったか。」「どの場面つまずき, 改善するにはどうしたらいいか。」を, 全教職員で振り返る。
- 協議会で出た意見や指導助言の内容をまとめた「振り返り」を作成し, 学びを共有。

成果と課題

児童の変容

- ◎課題に対して根気強く取り組める児童が増えた。
- ◎児童意識調査において, 算数科が「楽しい」「分かった」と肯定的に評価する児童の割合は, 80%以上になった。(低学年においては, 約90%だった)
- ▲否定的な意見については, 「計算が嫌だから」「頑張っても解けない」「算数が苦手・難しい」という回答が多かったことから, 「楽しい」だけではなく, 「できた」という達成感も感じられるような学習をしていくことで, 「やってみよう」という意欲に今後つなげていく必要がある。
- ▲学力の定着には課題が残った。基礎学力が定着していないため, 考え方が合っても計算間違いをしてしまう児童がいる。

教職員の変容

- ◎児童がつまずきそうな場面を想定し, 事前に手立てを考えることができるようになった。
- ◎算数科の系統性を意識して指導することができるようになった。

M-Fileの作成

- 算数科の各単元の指導のポイントやつまずきに応じた支援方法などについて, 各学年, 各領域, 単元ごとにまとめた「M-File」を作成し職員に配付。授業で活用した。

研究仮説

【三年次】

場面のイメージがしやすくなる手立てを講じるとともに, 友達と考えを伝え合うことでイメージを共有することができれば, 児童の問題場面を理解する力の向上が図れるだろう。

【二年次】

問題提示の際に問題場面のイメージ化を促し, 児童に問いをもたせるような発問の工夫をすれば, 児童が自分の考えをもって主体的に思考し, 学力の向上を図ることができるだろう。

【一年次】

①焦点化しためあてに対して, 焦点化した活動を仕組めば, 児童が「分かった」「できた」「楽しい」と実感できるだろう。②ペアやグループ学習を活性化して「共有化」をはかる授業をすれば, (一人残らず) 学び合えるだろう。



学習につまずきのある児童に対して、どのような手立てや支援を行っているのですか？ また、学校全体として、どのように取り組んでいますか？



東城小では、児童の実態をもとにつまずきの要因を分析し、それに対する手立てや支援を考えています。その1つを紹介するよ！

二年生児童 国語科の取組

## 取組前

### 児童の実態

- ・大切なことがどこに書かれているのかを読み取ることが難しい。
- ・自分の書きたいことを文に表すことが難しい。
- ・授業中に意欲的に学習に参加できていない時が多い。

### つまずきの要因

- ・平仮名(拗音, 促音), 片仮名, 漢字の定着が不十分である。
- ・語彙が少ない。



## 取組

目標  
自分の力で読み書きをすることができる。

### 授業の取組

- 語彙の獲得
  - ・動作化を通してイメージをふくらませる。
  - ・似た意味の言葉を考えたり, 他の言葉に置き換えたりする。
  - ・実物を見せる。

つまずきに対する手立てや支援

### 放課後学習の取組

- 片仮名カード
- 漢字カード
- 予習(音読)
- お楽しみゲーム(学習ゲーム)
- 頑張りカードの活用

## 取組後

### 成果

- ・平仮名や片仮名, 漢字が定着してきており, 自分の力で読み取ったり, ワークシートに記入をしたり, 問題を解いたりすることができるようになってきた。そのため, 意欲的に学習に取り組めるようになった。
- ・誤字脱字はあるものの, 自分の書きたいことを短い文章(4文程度)で表すことができるようになってきた。

授業中や放課後に勉強を頑張って続けたからできるようになったと思います。分からないことが分かるようになってうれしいです。  
放課後の勉強では, まだ習っていないことを先に行っているから, 勉強がよく分かってきました。授業中には, 前よりも発表できるようになったし, 自分で書けるようになってきました。もっと勉強してレベルアップしたいです。



<フォローアップ対象児童>



<放課後学習担当教師>

放課後学習頑張りカードに, その日に頑張ったことを全て記入してシールを貼ることで, 自分が頑張った足跡が分かるようにしました。特に, 予習で音読をすることで自信やワクワク感をもつことができ, 授業に参加する意欲を高めることができました。



3年間「学力フォローアップ校の取組」を行うことで, 児童のつまずきの要因を考えることの大切さが分かりました。つまずきの要因をもとに職員全体で手立てや支援を考えることで, 多くの手立てや支援があることが分かり, 児童の理解に応じて準備をすることができるようになりました。また, 他学年との学習のつながりを考えて指導を行うことを意識するようになりました。



<担任>

授業づくりのサイクル

個別の指導計画作成  
児童の実態の共有  
つまずきの要因分析

手立てや支援を考える

日々の授業実施  
研究授業

手立てや支援の検証

- ・手立てや支援の実施
- ・児童の見取り

- ・授業についての授業者の振り返り
- ・授業記録
- ・同僚との対話
- ・教材に関する情報交換
- ・知識の共有
- ・事後研修での協議

教師の理解の深まり

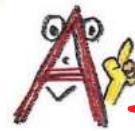
その他の実践事例, 学習指導案をホームページに掲載しています。下記アドレスまたはQRコードよりアクセスしてください。



<http://www.syobara-tojo-e.hiroshima-c.ed.jp/>



授業研究では, 全職員で事前に児童の実態を共有することで, 多面的な分析となり, 手立てや支援を検討することができます。そして, 担任がその児童にとって最適な手立てや支援を実行していきます。



具体的な手立てや支援を行った場合は, 記録に残したり職員同士で相談をしたりして, 次の授業に活かしていきます。